NEC

PC98-NX

活用ガイド
ハードウェア編

本体の構成各部

システム設定

PC98-NX シリーズ

Mate

スリムタワー型(高拡張性タイプ)

スリムタワー型

Mate R

スリムタワー型

(Windows XP Professionalインストールモデル)
(Windows XP Home Editionインストールモデル)
(Windows 2000 Professionalインストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』「7.マニュアルの使用方法」でご確認ください。

◆ 添付品の確認、本機の接続、Windows XP、Windows XP Home、またはWindows 2000のセットアップ
➡『はじめにお読みください』

◆ 本機を安全に使うための情報
➡『安全にお使いいただくために』

◆ Windowsの基礎知識、基本的な操作方法
Microsoft社製『ファーストステップガイド』または『クイックスタートガイド』

このマニュアルです

◆ 本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)、ATコマンド
➡『活用ガイド　ハードウェア編　スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型、Mate R スリムタワー型』(電子マニュアル)

◆ 本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ トラブル解決方法
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ 再セットアップ方法
➡『活用ガイド　再セットアップ編』

◆ 本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明
➡『ハードウェア拡張ガイド』(電子マニュアル)

◆ ディスプレイの利用方法
➡ 液晶ディスプレイ、CRTディスプレイがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルにより異なります。

◆ 選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
➡ Office Personal 2003、Office XP Personal、Office XP Professionalがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

◆ パソコンに関する相談窓口、故障時のサービス網、およびNECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」のご案内
➡『NEC PCあんしんサポート』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
http://www.microsoft.com/japan/info/press/

はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それらを操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NXシリーズ　Mate
MY32Y/G-D、MY28Y/G-D、MY30V/B-D、MY26V/B-D、MY24X/B-D
（Windows XP Professionalインストールモデル）
（Windows XP Home Editionインストールモデル）
（Windows 2000 Professionalインストールモデル）

PC98-NXシリーズ　Mate R
MY26V/R-D、MY24X/R-D
（Windows XP Professionalインストールモデル）
（Windows XP Home Editionインストールモデル）
（Windows 2000 Professionalインストールモデル）

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

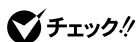
仕様についての詳細は、「Mate/Mate R電子マニュアル」の「機能仕様一覧」をご覧ください。

2003年10月　初版

853-810602-079-A

このマニュアルの表記について

◆ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

記号	意味
	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。
	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。
XP	Windows XPに特有の機能や操作について説明しています。
XP Home	Windows XP Homeに特有の機能や操作について説明しています。
2000	Windows 2000に特有の機能や操作について説明しています。

このマニュアルでは、本体の型ごとの説明をわかりやすくするために、次の記号を使っています。

記号	意味
Gスリム	スリムタワー型(高拡張性タイプ)
スリムタワー	スリムタワー型
Rスリム	Mate R スリムタワー型

◆ このマニュアルで使用している表記の意味

用語	意味
本機	次の機種を指します。 PC98-NXシリーズ　Mate MY32Y/G-D、MY28Y/G-D、MY30V/B-D、MY26V/B-D、MY24X/B-D (Windows XP Professionalインストールモデル) (Windows XP Home Editionインストールモデル) (Windows 2000 Professionalインストールモデル) PC98-NXシリーズ　Mate R MY26V/R-D、MY24X/R-D (Windows XP Professionalインストールモデル) (Windows XP Home Editionインストールモデル) (Windows 2000 Professionalインストールモデル) ＊ 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、Mate、Mate Rを指します。
スリムタワー型（高拡張性タイプ）	次の機種を指します。 MY32Y/G-D、MY28Y/G-D
スリムタワー型	次の機種を指します。 MY30V/B-D、MY26V/B-D、MY24X/B-D
Mate R スリムタワー型	次の機種を指します。 MY26V/R-D、MY24X/R-D
アプリケーションレスモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルを指します。
Office 2003モデル	Office Personal 2003がインストールされた状態でご購入いただいたモデルを指します。
Office XPモデル	Office XP Personal、またはOffice XP Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルを指します。
CD/DVD	CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RWまたはDVD-RAMを指します。 書き分ける必要のある場合は、その媒体の種類を記載します。
CD/DVDドライブ	CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたは、DVDマルチドライブを指します。 書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
無線LANモデル	無線LAN(IEEE802.11a/b/g)機能を搭載しているモデルを指します。

「スタート」ボタン→「終了オプション」	Windows XPでログオンやログオフの方法を変更している場合は、「終了オプション」のメニューが異なります。このマニュアルでは「ようこそ画面」を使用している場合を例に説明しています。
「アプリケーションCD-ROM」	本機添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を指します。
「スタート」ボタン→「コントロールパネル」	Windows XPの「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。また、コントロールパネルはカテゴリ表示された状態を指します。
「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」	Windows 2000の「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
『　』	『　』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版、またはMicrosoft® Windows® 2000 Professional operating system日本語版
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system日本語版
Windows XP Home、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版
Windows 2000、Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system日本語版
Windows 98 SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system日本語版
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition 2003（Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office Home Style+）
Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal（Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook®、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0、Microsoft® Outlook Plus! 2.0）

Office XP Professional	Microsoft® Office XP Professional(Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook®、Microsoft PowerPoint®、Microsoft Access、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0)
MS-IME2003	Microsoft® IME 2003
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
WinDVD	InterVideo® WinDVD™ 4
RecordNow DX	Sonic RecordNow DX
DLA	Sonic DLA
StandbyDisk	StandbyDisk 2000-XP Pro 日本語版
StandbyDisk Solo	StandbyDisk Solo 日本語版
StandbyDisk Solo RB	StandbyDisk Solo RB 日本語版
Masty Data Backup	Masty Data Backup/F for Windows

◆ このマニュアルの記載順序

1. 筐体別に次の順序で記載しています。
   スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型、Mate R スリムタワー型
2. 筐体が同じ場合、CPUの性能が高い順に記載しています。
3. OSは、次の順序で記載しています。
   Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000、Windows 98 SE

◆このマニュアルで使用しているイラスト

・このマニュアルに記載のイラストや画面は、実際のものとは多少異なることがあります。

◆ デバイスマネージャの開き方

・Windows XPの場合

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック

3 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

「デバイスマネージャ」が表示されます。

・Windows 2000の場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「システム」をダブルクリック

3 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

「デバイスマネージャ」が表示されます。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。
対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

この装置には電気通信事業法第第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。認証番号は次の通りです。

筐体名	通信機器	認証番号
スリムタワー型(高拡張性タイプ) スリムタワー型	増設LANボード	D03-0039JPB
スリムタワー型(高拡張性タイプ)	無線LAN(IEEE802.11a/b/g)	D03-0431JP
Mate Rスリムタワー型	増設LANボード (ギガビットイーサネット対応)	D03-0040JPB
	モデム	A02-0606JP

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードに設定してご使用になりますと電気通信事業法(技術基準)に違反する行為となります。なお、ご購入時の使用国モード(初期値)は「日本モード」となっておりますので、設定を変更しないでそのままご使用下さい。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはDVDマルチドライブが搭載されています。

■高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows XP、Windows XP Home、またはWindows 2000および本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご使用ください。
(7) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(8) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
(9) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2003年9月現在のものです。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.
NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.
NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.
Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1：NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART5までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。
『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。
なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。
また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。
索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(チェック!!)、用語(用語)、メモ(メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいます。

目次

索引

PART1　本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2　システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)

スリムタワー型(高拡張性タイプ)を利用する場合のBIOSセットアップメニューについて説明しています。

PART3　システム設定(スリムタワー型の場合)

スリムタワー型を利用する場合のBIOSセットアップメニューについて説明しています。

PART4　システム設定(Mate R スリムタワー型の場合)

Mate R スリムタワー型を利用する場合のBIOSセットアップメニューについて説明しています。

PART5　付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

目次

PART 2

PART 3

システム設定(スリムタワー型の場合) 161

PART 4

システム設定(Mate R スリムタワー型の場合) 183

索 引

英数字

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

PART

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

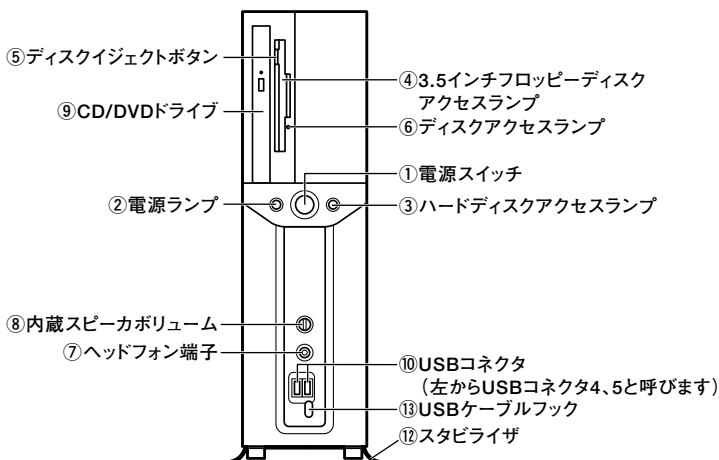
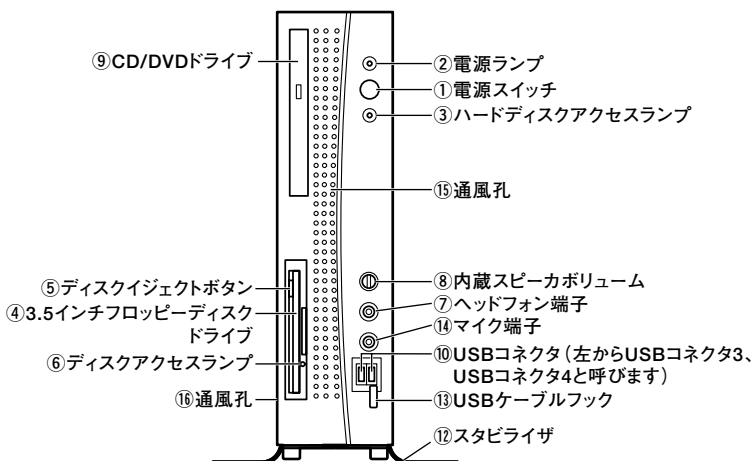
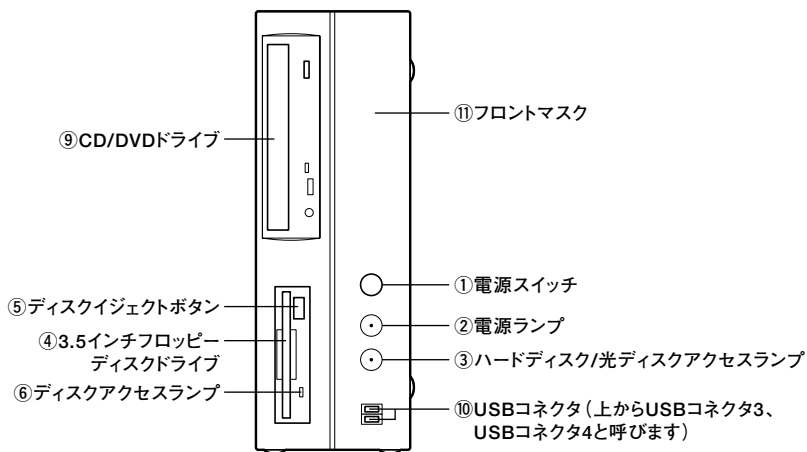
順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体前面

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合

■スリムタワー型の場合

■Mate R スリムタワー型の場合

①電源スイッチ(⏻)

本体の電源の状態を変更(入れる、スタンバイ/スタンバイからの復帰、休止状態/休止状態からの復帰)するスイッチです。→「**電源**」(**P.40**)

②電源ランプ()

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。→「**電源**」(**P.40**)

③ハードディスクアクセスランプ(スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型:)またはハードディスク/光ディスクアクセスランプ(Mate R スリムタワー型:)

スリムタワー型(高拡張性タイプ)、Mate Rスリムタワー型の場合、IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。
スリムタワー型の場合、ハードディスクドライブが読み書きしているときに点灯します。
工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、増設ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)、CD/DVDドライブ(セカンダリマスタ)があります。なお、オプションなどのCD/DVDドライブ(セカンダリスレーブ)などを増設した場合、ドライブの種類によっては、点灯しないことがあります。

→「**ハードディスクドライブ**」(**P.76**)、「**ハードディスクドライブ(IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合)**」(**P.84**)、「**CD/DVDドライブ**」(**P.96**)

チェック!!

ハードディスクアクセスランプまたはハードディスク/光ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

④3.5インチフロッピーディスクドライブまたはなし

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。

→「**フロッピーディスクドライブ**」(**P.94**)

⑤ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出します。

⑥ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!

ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。

Gスリム スリムタワー ⑦ヘッドフォン端子( )

ミニプラグのステレオ ヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。ヘッドフォンを耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。

Gスリム スリムタワー ⑧内蔵スピーカボリューム( )

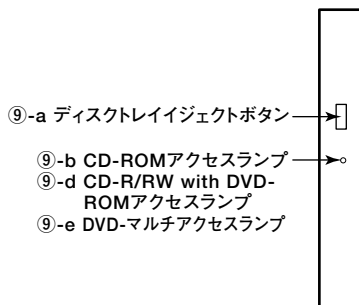
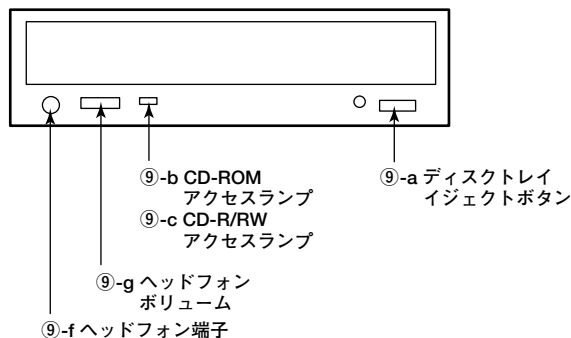
内蔵スピーカ、またはヘッドフォン端子に接続したヘッドフォンの音量を調節します。→「**サウンド機能**」(**P.105**)

⑨CD/DVDドライブ

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。
さらにCD-R/RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。
さらにCD-R/RW with DVD-ROMドライブでは、DVD-ROMのデータを読み出すことができます。
さらにDVDマルチドライブでは、DVD-RAM、DVD-RまたはDVD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。
→「**CD/DVDドライブ**」(**P.96**)
CD/DVDドライブを取り外して、他のファイルベイ用内蔵機器に交換することができます。→『**ハードウェア拡張ガイド**』

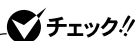
CD/DVDドライブ拡大図

※機種によってボタン、ランプなどの位置が異なる場合があります。

Gスリム スリムタワー ■スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型の場合

Rスリム ■Mate R スリムタワー型の場合

⑨-a ディスクトレイイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

⑨-b CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

Rスリム ⑨-c CD-R/RWアクセスランプ

CD-R/RWドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!

CD-R/RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因となります。

スリムタワー ⑨-d CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!

CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因になります。

Gスリム スリムタワー ⑨-e DVDマルチアクセスランプ

DVDマルチドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!

DVDマルチアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。CD-R、CD-RW、DVD-RAM、DVD-RまたはDVD-RWの内容がこわれたり、故障の原因になります。

Rスリム ⑨-f ヘッドフォン端子( )

ミニプラグのステレオ ヘッドフォンを接続します。この端子で聞くことができるのは、音楽CDの再生音だけです。また、ヘッドフォンを耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。

Rスリム ⑨-g ヘッドフォンボリューム

CD用ヘッドフォン端子に接続したヘッドフォンの音量を調節します。

⑩USBコネクタ( )

USB機器を接続します。
USB2.0/1.1機器に対応しています。USB2.0の転送速度を出すためには、USB2.0対応の機器を接続する必要があります。

Rスリム

⑪フロントマスク

本体前面のカバーです。

Gスリム スリムタワー

⑫スタビライザ

本体を安定させるための脚です。

Gスリム スリムタワー

⑬USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

スリムタワー

⑭マイク端子(ミニジャック)( )

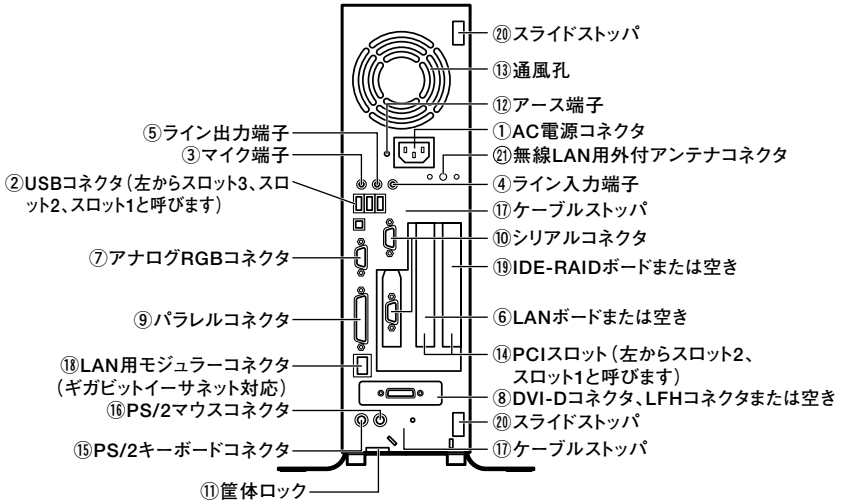
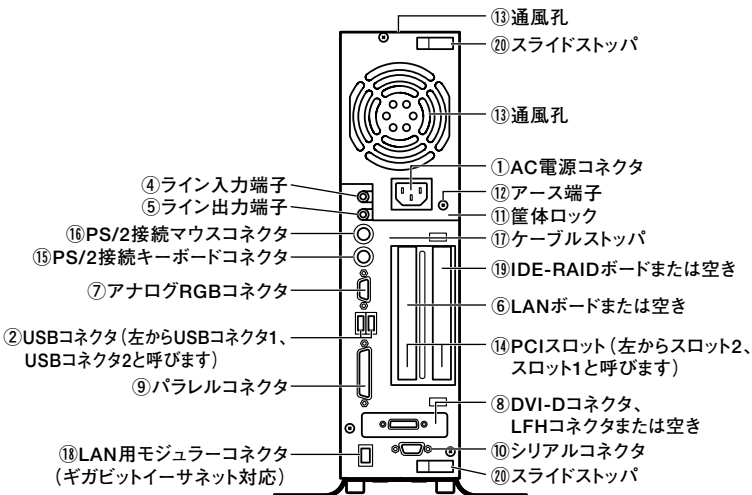
市販のマイクを接続します。

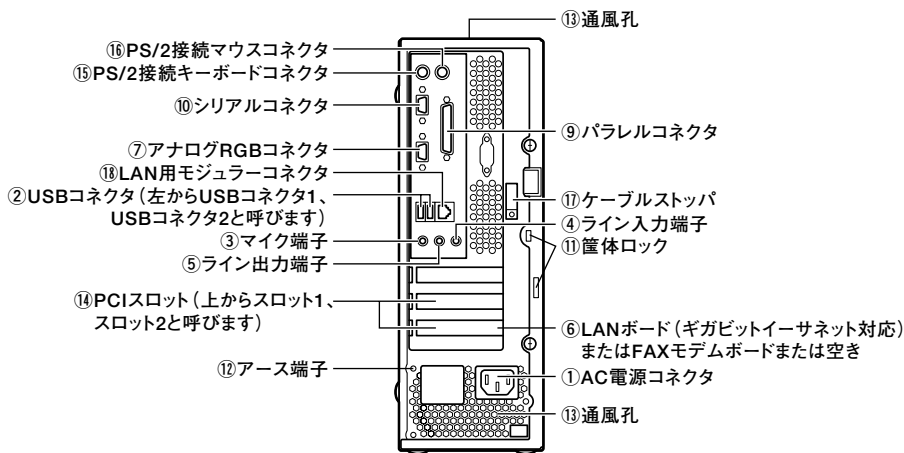
Gスリム スリムタワー

⑮通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。物を載せたり壁などでふさがないように注意してください。

本体背面

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合

■スリムタワー型の場合

■Mate R スリムタワー型の場合

①AC電源コネクタ

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。
添付の電源ケーブルを接続します。

②USBコネクタ( )

USB機器を接続します。
USB2.0/1.1機器に対応しています。USB2.0の転送速度を出すためには、USB2.0対応の機器を接続する必要があります。

Gスリム Rスリム

③マイク端子(ミニジャック)( )

市販のマイクを接続します。

④ライン入力端子(ミニジャック)( )

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

⑤ライン出力端子(ミニジャック)( )

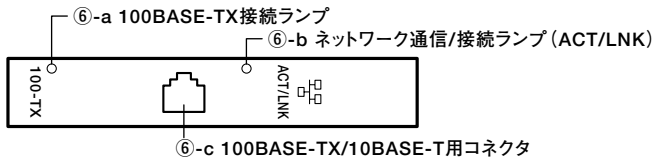
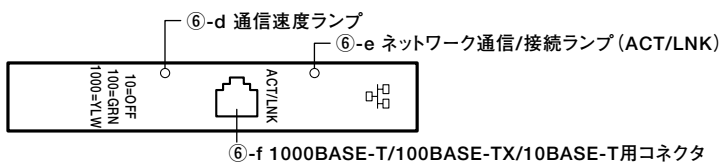
市販のオーディオ機器へ音声信号を出力します。

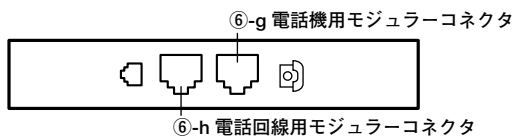
Gスリム スリムタワー Rスリム

⑥LANボードまたはFAXモデムボードまたは空き

PCIスロットにLANボードまたはFAXモデムボードが内蔵されています。
LANボードが内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。
→「**LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード**」(**P.106**)
FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、データ通信やFAXの送受信などを行うことができます。→「**FAXモデムボード**」(**P.117**)

LANボード拡大図

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型でLANボードを選択した場合

■Mate R スリムタワー型でLANボード(ギガビットイーサネット対応)を選択した場合

FAXモデムボード拡大図

■Mate R スリムタワー型でFAXモデムボードを選択した場合

⑥-a　100BASE-TX接続ランプ

100Mbpsでネットワークが接続されていて、ハブ(マルチポートリピータなど)からリンクパルスを受信すると点灯します。10Mbpsでネットワークが接続されている場合は点灯しません。

⑥-b　ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LNK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

⑥-c　100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ( )

100BASE-TX/10BASE-Tのケーブルを接続します。

⑥-d　通信速度ランプ

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生するとネットワークの通信速度に応じて点灯または点灯しません。

・ 1000Mbpsネットワーク接続時は黄色に点灯します。
・ 100Mbpsネットワーク接続時は緑色に点灯します。
・ 10Mbpsネットワーク接続時は点灯しません。

⑥-e ネットワーク通信/接続ランプ(ACT/LINK)

ネットワーク上で読み込み/書き込みが発生すると点滅します。また、ハブ(マルチポートリピータなど)から、リンクパルスを受信すると点灯します。

- 100Mbpsネットワーク接続時は緑色に点滅/点灯します。
- 10Mbpsネットワーク接続時は黄色に点滅/点灯します。

ただし、必ずしも本機の読み込み/書き込みとは限りません。

⑥-f 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T用コネクタ( )

1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tのケーブル(エンハンスドカテゴリ5以上の使用を推奨)を接続します。

⑥-g 電話機用モジュラーコネクタ( )

電話機を接続します。

⑥-h 電話回線用モジュラーコネクタ( )

電話回線を接続します。

⑦アナログRGBコネクタ( )

アナログインタフェースに接続します。

→「ディスプレイ」(P.67)

〈GeForce4 MX440を選択しないモデルの場合〉

アナログRGBコネクタに接続します。

Gスリム スリムタワー ⑧DVI-Dコネクタ、DVI-Iコネクタ、LFHコネクタまたは空き(または DVI)

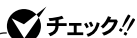
デジタルインタフェースに接続します。

→「ディスプレイ」(P.67)

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型でGeForce4 MX440を選択したモデルの場合〉

アナログインタフェースのディスプレイを接続する場合は、本機に添付のLFH-アナログ分岐ケーブル(デュアルディスプレイ機能用)を利用し、LFHコネクタに接続します。本体のアナログRGBコネクタは利用できません。

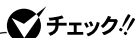
〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型でデジタルディスプレイ用コネクタボードを選択したモデルの場合〉

DVI-Dコネクタに接続します。

チェック!!

アナログRGBコネクタとDVIコネクタは、同時に利用できません。また、DVI-Dコネクタと DVI-Iコネクタも同時に利用できません。

メモ

スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型でGeForce4 MX440を選択し、デジタルインタフェースのディスプレイを接続する場合は、別売のLFH-デジタル分岐ケーブル(デュアルディスプレイ機能用)を利用し、LFHコネクタに接続します。

⑨パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

チェック!!

- **PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。**
- **パラレルコネクタには、D-Sub25ピンのシリアル機器を接続しないでください。**

⑩シリアルコネクタ1,2(1[IOIOI]、2[IOIOI])、またはシリアルコネクタ([IOIOI])

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。

チェック!!

- PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。
- RS-232C変換アダプタ(PK-CA102)は、シリアルコネクタ1のみで使用できます。
- 周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

⑪筐体ロック([K])

ロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

→「セキュリティ/マネジメント機能」(P.128)

⑫アース端子(⏚)

アース線を接続します。

⑬通風孔

本体内部の熱を逃がすための通風孔です。壁などでふさがないように注意してください。

チェック!!

スリムタワー型(高拡張性タイプ)およびMate Rスリムタワー型の場合、特に本体上部の通風孔は物などを置いてふさがないよう十分注意してください。

⑭PCIスロット

本体の機能を強化したり拡張したりするための、各種ボードを挿入するスロットです。モデルによっては、LANボード、FAXモデムボード、IDE-RAIDボードなどが挿入されています。

→**「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.106)、「FAXモデムボード」(P.117)**

参照 **本機の機能を拡張するためのさまざまな機器の取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。**

⑮PS/2接続キーボードコネクタ( )

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。→**「キーボード」(P.57)**

⑯PS/2接続マウスコネクタ( )

PS/2 109キーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス(ミニDIN6ピン)を接続します。テンキー付きPS/2小型キーボードのモデルでは、キーボードのケーブルがキーボード用とマウス用に分岐しているので、マウス用のケーブルを接続します。なお、PS/2接続のマウスはキーボードに接続します。→**「マウス」(P.66)**

⑰ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型の場合は、添付品収納箱に入っています。

→**『ハードウェア拡張ガイド』**

⑱LAN用モジュラーコネクタ( )

LAN用モジュラーコネクタが内蔵されているので、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

→**「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.106)**

Gスリム スリムタワー

⑲IDE-RAIDボードまたは空き

RAID 1(ミラーリング)によって、2つのハードディスクドライブに同じ内容のデータを書き込みます。片方のハードディスクドライブが故障しても、もう一方のハードディスクドライブにもデータが保存されるため、安全です。→**「ハードディスクドライブ(IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合)」(P.84)**

Gスリム スリムタワー ⑳スライドストッパ

本体のルーフカバーを固定します。

参照 **ルーフカバーの取り付け/取り外しについては、『ハードウェア拡張ガイド』をご覧ください。**

Gスリム ㉑無線LAN用外付アンテナコネクタ

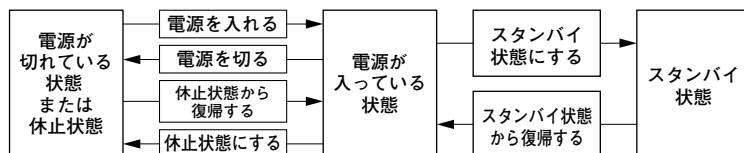
無線LAN用の外付けアンテナを接続します(無線LANモデルの場合)。

電源

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

◎電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。

●電源が切れている状態

Windowsを終了するなどして本体を使用していない状態です。

●電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

●スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリへ保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

●休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示	ディスプレイの電源ランプ
電源が入っている	緑色に点灯	表示される	緑色に点灯
電源が切れている	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯 ※
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない	オレンジ色に点灯 ※
休止状態	点灯しない	表示されない	オレンジ色に点灯 ※

※使用するディスプレイによっては、黄色に見える場合があります。

◎電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

●電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
LANによるリモートパワーオン機能を利用する（Mate R スリムタワー型を除く）

●電源を切る

電源の操作方法
〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉 終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、「電源を切る」ボタンをクリック 〈Windows 2000の場合〉 終了メニューから「シャットダウン」を選択し、「OK」ボタンをクリック
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する（Mate R スリムタワー型を除く）

●スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉 終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリック 〈Windows 2000の場合〉 終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリック
〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉 「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」で設定する 〈Windows 2000の場合〉 「コントロールパネル」→「電源オプション」の「詳細」で設定する

●スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

●休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉 ・終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、【SHIFT】を押しながら「休止状態」ボタンをクリック ・「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」で設定する 〈Windows 2000の場合〉 ・終了メニューから「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリック ・「コントロールパネル」→「電源オプション」の「詳細」で設定する

●休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する
FAXモデムによるリング機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

◎電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。

チェック!!

電源を入れる場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけてから行ってください。ただし、電源を切ってから、電源ケーブルを抜いたり、ブレーカー等で供給元の電源を切った場合は、30秒以上間隔をあけてから、電源を入れてください。

1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する

2 ディスプレイなど、周辺機器の電源を入れる

3 本体の電源スイッチを押す

チェック!!

メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって次のように変わってきます。

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
512MBのメモリを2枚増設した場合、約13秒かかります。
〈スリムタワー型の場合〉
512MBのメモリを2枚増設した場合、約7秒かかります。
〈Mate R スリムタワー型の場合〉
256MBのメモリを2枚増設した場合、約5秒かかります。

◎電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の方法があります。

チェック!!

電源投入後、Windowsの起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

■「スタート」ボタンによる方法

〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

チェック!!

FAXモデムボードを搭載したモデルで通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

2 「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリック

3 「電源を切る」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

チェック!!

Windows XPまたはWindows XP Homeの動作中は、電源スイッチを押して電源を切らないでください。ソフトウェアなどのエラーで、Windows XPまたはWindows XP Homeが操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが･･･」をご覧ください。

メモ

「電源オプション」では次の設定が行えます。
- 電源スイッチの変更(スリープ、休止状態、シャットダウン)
- 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XPのヘルプ

〈Windows 2000の場合〉

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

チェック!!

FAXモデムボードを搭載したモデルで通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、電源を切ってください。通信状態のまま電源を切ると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。

2 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリック

3 「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック

本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、ディスプレイおよび周辺機器の電源を切る

チェック!!

Windows 2000の動作中は、電源スイッチを押して電源を切らないでください。ソフトウェアなどのエラーで、Windows 2000が操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが・・・」をご覧ください。

メモ

「電源オプション」では次の設定が行えます。
- 電源スイッチの変更(スタンバイ、休止状態、電源オフ)
- 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows 2000のヘルプ

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ状態にするには、「電源オプション」または、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」または、「電源の管理」の設定の変更→Windowsのヘルプ

チェック!!

スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

◎スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

チェック!!

リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の状態に更新するため不定期にスタンバイ状態が解除される場合があります。

■「スタート」ボタンによる方法

〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリック

2 「スタンバイ」をクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

〈Windows 2000の場合〉

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリック

2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

1 **電源スイッチを押す**

電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

チェック!!

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

◎スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。なお、本機をキーボード/マウスによってスタンバイ状態から復帰するには、キーボード/マウスのプロパティの「電源の管理」タブにある「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている必要があります。

チェック!!

XP XP Home

USB接続のキーボード/マウスのモデルで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

参照 「キーボード」または「マウス」の設定の変更→Windowsのヘルプ

■入力デバイスによる方法

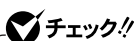
1 **マウスを動かすか、キーボードのキーを押す**

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

■電源スイッチによる方法

1 **電源スイッチを押す**

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

チェック!!

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

◎スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

●スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- 停電が起きたとき
- 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

●スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- プリンタへ出力中のとき
- 音声または動画を再生しているとき
- フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMなどを読み取り中のとき
- スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- スタンバイ機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- Windowsの起動処理中、終了処理中のとき
- 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

●その他の注意

・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
・ SCSIインタフェースボードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。

2000 ・ スタンバイ状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度、USB機器を抜き差ししてください。また、印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。
・ スタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
・ スリムタワー型の場合、スタンバイ状態で装置本体内のファンが作動する場合があります。

●スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

・ アプリケーションが動作しない
・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
・ マウス、キーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって休止状態にするには、「電源オプション」または「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」または、「電源の管理」の設定の変更→Windowsのヘルプ

チェック!!

休止状態/休止状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

◎休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があります。

■「スタート」ボタンによる方法

〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」をクリック

2 【SHIFT】を押しながら、「休止状態」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

〈Windows 2000の場合〉

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリック

2 「休止状態」を選択して「OK」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

■電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

チェック!!

電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを 4 秒以上押さないでください。電源スイッチを 4 秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

◎休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

1 電源スイッチを押す
Windowsが起動し、前回休止状態機能を使用して電源を切ったときと同じ状態に復元されます。

◎休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

●休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
- 周辺機器の構成を変更(取り付け/取り外し)したとき

また、次のような状態で休止状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- プリンタへ出力中のとき
- 音声または動画を再生しているとき
- フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMなどを読み取り中のとき
- 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- Windowsの起動処理中、終了処理中のとき
- 通信用ソフトウェアでFAXモデムまたはLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

●その他の注意

- 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- 休止状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- SCSIインタフェースボードを使用している場合、接続されている機器によっては正しく休止状態から復帰できない場合があります。このような場合は、休止状態にしないでください。

2000 ・ 休止状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度USB機器を抜き差ししてください。また、印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。

●休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ 休止状態にする前の内容に復帰できない
- ・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。
この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ(「電源オプション」または、「電源の管理」、Timer-NX)、LAN、回線からのアクセス(リモートパワーオン機能、リング機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!!

タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

◎「電源オプション」、「電源の管理」

メモ

本機はエネルギースターに対応していますので、省エネルギーのため工場出荷時にスタンバイ状態になるように設定してあります。

〈Windows XP、Windows XP Homeの場合〉

「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」の「システムスタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。
また、「電源オプション」の「システム休止状態」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的に休止状態にすることができます。工場出荷時の「電源オプション」は次のように設定されています。

「電源オプション」の設定 / 本体	モニタの電源を切る	ハードディスクの電源を切る	システムスタンバイ	システム休止状態
工場出荷時の設定値	約20分	約30分※	約20分	なし

※約30分で切れるように設定されていますが、約20分後にはスタンバイ状態に移行して、ハードディスクドライブの電源が切れます。

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XPのヘルプ、Windows XP Homeのヘルプ

〈Windows 2000の場合〉

「コントロールパネル」→「電源オプション」の「システムスタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。

また、「電源オプション」の「システム休止状態」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的に休止状態にすることができます。工場出荷時の「電源オプション」は次のように設定されています。

「電源オプション」の設定 / 本体	モニタの電源を切る	ハードディスクの電源を切る	システムスタンバイ	システム休止状態
工場出荷時の設定値	約20分	約30分※	約20分	なし

※約30分で切れるように設定されていますが、約20分後にはスタンバイ状態に移行して、ハードディスクドライブの電源が切れます。

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows 2000のヘルプ

◎Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」「Timer-NX」、Timer-NXのヘルプ

◎リモートパワーオン機能(LANによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照
- 「セキュリティ/マネジメント機能」「マネジメント機能」「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.132)
- 「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)」(P.111)
- 「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)」(P.114)

◎リング機能(FAXモデムによる電源の自動操作)

FAXモデムボードが内蔵されているモデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態または休止状態から復帰することができます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」「Timer-NX」、Timer-NXのヘルプ

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。

参照 キーボード→Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

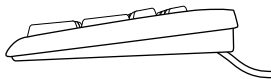
本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キー配列、収納方法などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列	収納方法
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列	横置き
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠	縦置き
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列	横置き
	テンキー付きUSB小型キーボード		109準拠	縦置き

◎収納方法

本機に添付されるキーボードには、キーボードを使わないときの収納方法として、縦置き収納型と横置き収納型の2つがあります。

■縦置き収納型

■横置き収納型

縦置き収納型は、キーボードを使わないときに、キーボードを縦置きにすることができるタイプ(スタンドタイプ)で、机上のスペースを広くすることができます。横置き収納型は、キーボードを使わないときも、横置きのままのタイプです。

使用上の注意

◎Nキーロールオーバ

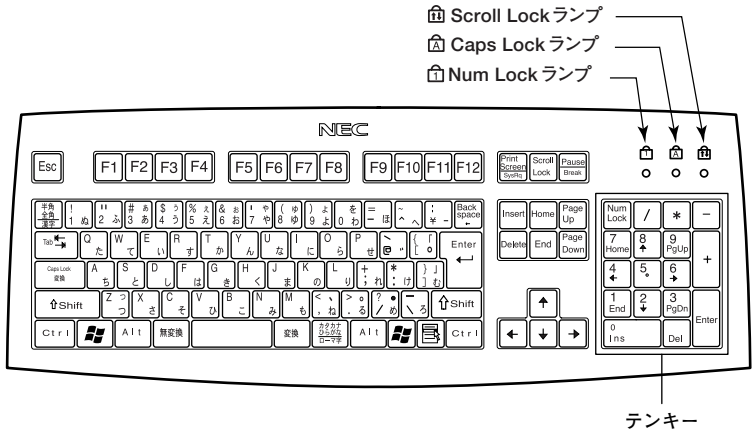
Nキーロールオーバとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効になる機能です。ただし、本機のキーボードは、疑似Nキーロールオーバのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや、有効にならないことがあります。

◎USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続のキーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒〜10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。
キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windowsを再起動してください。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード

◎キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。

【Esc】：エスケープキー

【F1】〜【F12】：ファンクションキー

【Print Screen SysRq】：プリントスクリーンキー

【Scroll Lock】：スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.60)

【Pause Break】：ポーズ/ブレークキー

【半角/全角/漢字】：半角/全角/漢字キー

【Tab】：タブキー

【Caps Lock 英数】：キャプスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.60)

【⇧Shift】：シフトキー

【Ctrl】：コントロールキー

【Windows】：Windowsキー

［アプリケーションキー］：アプリケーション キー
Windowsキーとアプリケーションキーは Windowsによって機能を割り当てることができます。

［Alt］：オルトキー

［無変換］：無変換キー

［　　　］：スペースキー

［変換］：変換キー

［カタカナ ひらがな ローマ字］：カタカナひらがな/ローマ字キー

［Enter］：エンターキー

［Back space］：バックスペースキー

［Insert］：インサートキー

［Delete］：デリートキー

［Home］：ホームキー

［End］：エンドキー

［Page Up］：ページアップキー

［Page Down］：ページダウンキー

［↑］［↓］［→］［←］：カーソル移動キー

［Num Lock］：ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」

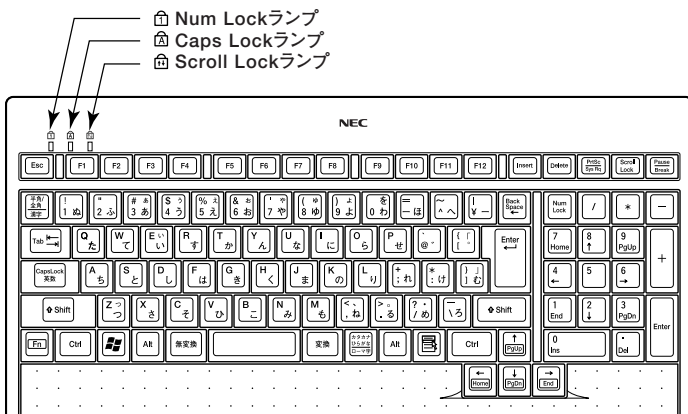
◎キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。
それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード

◎キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。

Esc ：エスケープキー

F1 〜 F12 ：ファンクションキー

PrtSc SysRq ：プリントスクリーンキー

Scroll Lock ：スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.60)

Pause Break ：ポーズ/ブレークキー

半角/全角/漢字 ：半角/全角/漢字キー

Tab ：タブキー

Caps Lock 英数 ：キャプスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.60)

⇧Shift ：シフトキー

Ctrl ：コントロールキー

Windowsキーの図 ：Windowsキー

: アプリケーション キー
Windowsキーとアプリケーションキーは Windowsによって機能を割り当てることができます。

Alt : オルトキー

無変換 : 無変換キー

: スペースキー

変換 : 変換キー

カタカナ ひらがな ローマ字 : カタカナひらがな/ローマ字キー

Enter : エンターキー

Back space : バックスペースキー

Insert : インサートキー

Delete : デリートキー

Home : ホームキー

End : エンドキー

PgUp : ページアップキー

PgDn : ページダウンキー

PgUp PgDn End Home : カーソル移動キー

Num Lock : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.60)

Fn : Fnキー→【Fn】を押しながらカーソル移動キーを押すと、【Page Up】【Page Down】【End】【Home】にすることができます。

◎キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.60)をご覧ください。

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

■Windows XPおよびWindows XP Homeの場合

日本語入力プログラム	アプリケーションレスモデル	Office XP モデル	Office 2003 モデル
MS-IME2002	○	○	
MS-IME2003			○

○：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

■Windows 2000の場合

日本語入力プログラム	アプリケーションレスモデル	Office XPモデル
MS-IME2000	○	△
MS-IME2002		○

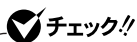
○：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

△：インストールされている日本語入力プログラム

◎日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

・ キーボードの【半角/全角/漢字】を押す
・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する

チェック!!

MS-IME2002、またはMS-IME2003をお使いの場合、は表示されません。

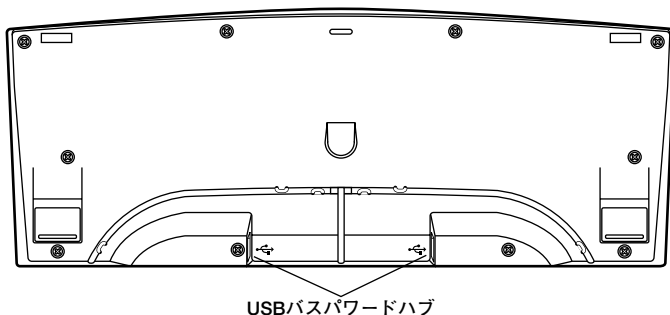
◎日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

メモ

日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB 109キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスを接続してください。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。

◎電源容量による接続の制限

・ USB接続のキーボードのUSBハブは、USBバスパワードハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
  USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。

メモ ハイパワーデバイス、ローパワーデバイス

ハイパワーデバイス：接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。
ローパワーデバイス：接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

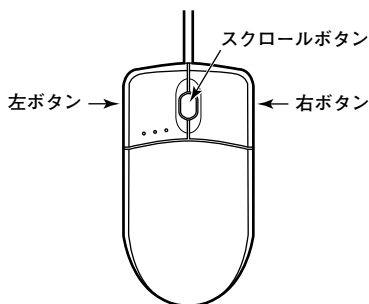
・ USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。
・ 本ハブにUSB2.0対応機器を接続すると、USB転送速度が最大12Mbpsに制限されます。

マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。

参照 マウス→Windowsのヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。

マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

◎スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上に押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。
また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

チェック!!

スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や表示色に切り替えて使用できます。

参照 ディスプレイ→Windowsのヘルプ

使用上の注意

- リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れることがあります。
- 文字がにじむときや縦縞状のノイズなどがあるときは、液晶ディスプレイの調整が必要です。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧になり、ディスプレイを調整してください。

〈液晶ディスプレイ(F15M01、F17R11-MDF)をアナログ液晶ディスプレイとして使用した場合〉

「画面調整用BMPファイル」が「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCDROM」に格納されています。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

〈アナログ液晶ディスプレイ(LCD1560V、LCD1760V)の場合〉

ディスプレイ本体のオートアジャスト機能で調整してください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

〈液晶ディスプレイ(F15M01、F17R11-MDF)をデジタル液晶ディスプレイとして使用した場合〉

画面の位置、サイズなどの調整は必要ありません。

- デジタルインタフェースを持つディスプレイとアナログインタフェースを持つディスプレイを同時に利用することはできません。
- 次の別売のディスプレイは使用できません。

  PC-KM174

  PC-KM212

表示能力

本機で表示可能な解像度、表示色、水平走査周波数、垂直走査周波数の関係は次の表の通りです。

◎スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型

■液晶ディスプレイの場合

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応			
解像度[ドット]	表示色	水平走査周波数[KHz]	垂直走査周波数[Hz]	15型液晶ディスプレイ F15M01	15型液晶ディスプレイ LCD1560V	17型液晶ディスプレイ LCD1760V	17型液晶ディスプレイ ※2 F17R11-MDF
640×480※1	256色※1	31.5	60	○※2※3	○	○	○※2※3
	65,536色	37.5	75	○※2	○	○	○ ※2
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	×
800×600	256色※1	37.9	60	○※2※3	○	○	○※2※3
	65,536色	46.9	75	○※2	○	○	○ ※2
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	×
1,024×768	256色※1	48.4	60	○※2※3	○	○	○※2※3
	65,536色	60.0	75	○※2	○	○	○ ※2
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	×
1,280×1,024	256色※1	64.0	60	×	×	○	○※2※3
	65,536色	80.0	75	×	×	○	○ ※2
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×
1,600×1,200	256色※1	75.0	60	×	×	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×	×	×
	1,677万色	106.	85	×	×	×	×

※1 Windows XPおよびWindows XP Homeでは640×480ドットおよび256色の表示には設定の変更が必要。

※2 アナログ液晶ディスプレイとして使用した場合。

※3 デジタル液晶ディスプレイとして使用した場合、垂直走査周波数の設定は、60Hz固定です。

■CRTディスプレイの場合

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応	
解像度［ドット］	表示色	水平走査周波数［KHz］	垂直走査周波数［Hz］	15型CRTディスプレイ X530	17型CRTディスプレイ FE770
640×480※	256色※	31.5	60	○	○
	65,536色	37.5	75	○	○
	1,677万色	43.3	85	○	○
800×600	256色※	37.9	60	○	○
	65,536色	46.9	75	○	○
	1,677万色	53.7	85	○	○
1,024×768	256色※	48.4	60	○	○
	65,536色	60.0	75	○	○
	1,677万色	68.7	85	○	○
1,280×1,024	256色※	64.0	60	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×
	1,677万色	91.1	85	×	×
1,600×1,200	256色※	75.0	60	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×
	1,677万色	106.3	85	×	×

※Windows XPおよびWindows XP Homeでは640×480ドットおよび256色の表示には設定の変更が必要。

◎Mate R スリムタワー型

本機の表示能力				セレクションメニューで選択できるディスプレイとの対応				
解像度［ドット］	表示色	水平走査周波数［KHz］	垂直走査周波数［Hz］	15型液晶ディスプレイ F15M01	15型液晶ディスプレイ LCD1560V	17型液晶ディスプレイ LCD1760V	15型CRTディスプレイ X530	17型CRTディスプレイ FE770
640×480※1	256色※1	31.5	60	○※2※3	○	○	○	○
	65,536色	37.5	75	○※2	○	○	○	○
	1,677万色	43.3	85	×	×	×	○	○
800×600	256色※1	37.9	60	○※2※3	○	○	○	○
	65,536色	46.9	75	○※2	○	○	○	○
	1,677万色	53.7	85	×	×	×	○	○
1,024×768	256色※1	48.4	60	○※2※3	○	○	○	○
	65,536色	60.0	75	○※2	○	○	○	○
	1,677万色	68.7	85	×	×	×	○	○
1,280×1,024	256色※1	64.0	60	×	×	○	○	○
	65,536色	80.0	75	×	×	○	×	×
	1,677万色	91.1	85	×	×	×	×	×
1,600×1,200	256色※1	75.0	60	×	×	×	×	×
	65,536色	93.8	75	×	×	×	×	×
	1,677万色	106.3	85	×	×	×	×	×

※1 Windows XPでは640×480ドットおよび256色の表示には設定の変更が必要。

※2 アナログ液晶ディスプレイとして使用した場合。

※3 デジタル液晶ディスプレイとして使用した場合、垂直走査周波数の設定は、60Hz固定です。

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Power Management System)に対応しています。
工場出荷時の設定では、マウスやキーボードからの入力がない状態が続くと、ディスプレイの省電力モードになります。
Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000の場合、工場出荷時の設定では、約20分後にスタンバイ状態に移行し、ディスプレイの省電力機能が働き続けます。

参照 ディスプレイの省電力機能→Windowsのヘルプ

チェック!!

- 省電力機能に対応していないディスプレイでは、本機能は使用できません。ディスプレイに損傷を与える可能性がありますので、ご利用の前にディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- 「電源の管理のプロパティ」の「モニタの電源を切る」と「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブの「スクリーンセーバー」の「待ち時間」に同じ時間を設定しないでください。

メモ

本機はエネルギースターに対応していますので、省エネルギーのため工場出荷時にスタンバイ状態になるように設定してあります。

デュアルディスプレイ機能について

スリムタワー XP 2000 スリムタワー型でGeForce4MX440を選択した場合、2台のディスプレイを接続して同時に使用することが可能なデュアルディスプレイ機能が利用できます。利用の仕方については、「◎デュアルディスプレイ機能の使い方」をご覧ください。

次のモードで表示可能です。

- 標準 ………………………… 1台のディスプレイに表示する
- クローン ……2台のディスプレイに同じ内容を表示する
- 水平スパン …2台のディスプレイに横方向の表示をする
- 垂直スパン …2台のディスプレイに縦方向の表示をする

チェック!!

- デュアルディスプレイ機能利用時(クローン、水平スパン、垂直スパン)に、プライマリモニタとセカンダリモニタで個別の解像度・色数の設定はできません。
- ネイティブ解像度(1024×768あるいは1280×1024)以下の解像度を選択した場合は、ビデオカード側でフルスクリーンに拡大(スケーリング)表示されます。
- デュアルディスプレイ機能利用時、Direct3DおよびOpenGLは、ソフトウェアモードで動作します。ハードウェアオーバーレイや3Dアクセラレーションは、サポートしておりません。
- 動画の再生中やアプリケーション使用中に表示モードを変更しないでください。いったん終了してから表示モードを変更してください。
- デュアルディスプレイ機能利用時に、スタンバイ状態で一方のディスプレイの接続を取り外さないでください。スタンバイからの復帰後に正常に表示されません。

◎デュアルディスプレイ機能の使い方

デュアルディスプレイ機能のモードの変更方法については、次の手順で行ってください。

チェック!!

2台目のディスプレイを接続した後、はじめて起動したときに「NVIDIA nViewセットアップウィザードへようこそ!」と表示されます。以降、説明を読みながら必要な機能の選択を行ってください。

◎Windows XPの場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
2. 「デスクトップの表示とテーマ」をクリックし、「画面」をクリック
3. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリック
4. 「GeForce4 MX440」タブをクリック
   画面が表示されます。
5. 「nView」を選択して、「標準」、「クローン」、「水平スパン」、「垂直スパン」から切り替えたいモードをクリック
6. 「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリック
7. 「OK」ボタンをクリック

以上で選択したモードで表示されます。

◎Windows 2000の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
2. 「画面」をダブルクリック
3. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリック
4. 「GeForce4 MX440」タブをクリック
   画面が表示されます。
5. 「nView」を選択して、「標準」、「クローン」、「水平スパン」、「垂直スパン」から切り替えたいモードをクリック
6. 「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリック
7. 「OK」ボタンをクリック

以上で選択したモードが表示されます。

◎表示可能なディスプレイの組み合わせについて

表示可能なディスプレイの組み合わせについては次の表のとおりです。

	15型液晶ディスプレイ ※ F15M01	15型液晶ディスプレイ LCD1560V	17型液晶ディスプレイ LCD1760V	17型液晶ディスプレイ ※ F17R11-MDF
15型液晶ディスプレイ ※ F15M01	○	○	○	○
15型液晶ディスプレイ LCD1560V		○	○	○
17型液晶ディスプレイ LCD1760V			○	○
17型液晶ディスプレイ ※ F17R11-MDF				○

※アナログ液晶ディスプレイとして使用した場合

別売のディスプレイを使う

本機には別売のディスプレイも接続することができます。別売のディスプレイを使用する場合は、「表示能力」(P.68)を参考に、適合するディスプレイを使用してください。
インタフェースは、機種によって異なり次のように3通りに分けられますので、ご利用の機種にあわせて、適合するディスプレイを使用してください。

参照 **接続するDVIコネクタ→「本体背面」(P.31)**

メモ

DVI(Digital Visual Interface)は、新しく作成された業界標準仕様のビデオ信号用インタフェースです。DVI-I(Integrated)は、デジタルビデオ信号とアナログビデオ信号を、同じコネクタ内に収容し、出力することができます。DVI-D(Digital)は、デジタル信号のみ出力することができます。

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)およびスリムタワー型で、GeForce4 MX440を選択した場合

デジタルインタフェースの場合は、DVIに準拠したデジタル液晶ディスプレイを別売のLFH-DVI分岐ケーブル(デュアルディスプレイ機能用)に接続してください。アナログインタフェースの場合は、アナログインタフェースのディスプレイを本機に添付のLFH-アナログ分岐ケーブル(デュアルディスプレイ機能用)に接続してください。

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)およびスリムタワー型で、デジタルディスプレイ用コネクタボードを選択した場合

デジタルインタフェースの場合は、DVIに準拠したデジタル液晶ディスプレイを、DVI-Dコネクタに接続してください。

アナログインタフェースの場合は、アナログインタフェースのディスプレイをアナログRGBコネクタに接続してください。

■スリムタワー型(高拡張性タイプ)およびスリムタワー型で、GeForce4 MX440もデジタルディスプレイ用コネクタボードも選択しない場合

アナログインタフェースのディスプレイを、アナログRGBコネクタに接続してください。

メモ

本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもありますが、軽い障害であればエラーチェックプログラムを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

◎バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしか空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。
また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。
ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。なお、Mate R スリムタワー型には添付されていません。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

また、その他にも本機にはハードディスクドライブをバックアップする次のアプリケーションが添付されています。

Gスリム スリムタワー XP 2000

■StandbyDisk

ハードディスクドライブのバックアップ、および障害時の復元

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk」

Gスリム Rスリム XP 2000

■StandbyDisk Solo

ハードディスクドライブ内のパーティションのバックアップ、および障害時の復元

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo」

■StandbyDisk Solo RB

ハードディスクドライブ内のパーティションのバックアップ、および障害時における原因部分の絞り込み

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo RB」

Gスリム スリムタワー XP 2000

■ミラーリング(RAID 1)機能

RAID1(ミラーリング)による2つのハードディスクドライブに同じ内容を書き込んでバックアップをとる

参照 「ハードディスクドライブ(IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合)」(P.84)、「Mate/Mate R 電子マニュアル」の「「FastCheckモニタリングユーティリティ」について」

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

◎不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」、または「スキップセクタ」といいます。パソコンは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、エラーチェックを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数※が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
40Gバイト	40,000,000,000バイト以上
80Gバイト	80,000,000,000バイト以上
120Gバイト	120,000,000,000バイト以上

※表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト＝1,000,000バイト、1Gバイト＝1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト＝1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト＝1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

◎ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」または「ドライブ文字」といいます。
工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。
なお、領域を変更する場合は、システム管理者などディスクの管理に詳しいユーザの元で行ってください。

チェック!!

「ディスクの管理」ではドライブ番号の割り当てられていない領域が存在しますが、不用意に削除しないでください。これは再セットアップする場合に必要な「再セットアップ領域」であるため、ドライブ番号を割り当てていません。この領域の削除方法については、『活用ガイド　再セットアップ編』「PART2　付録」をご覧ください。

参照 ディスクの管理→Windowsのヘルプ

ドライブ番号はモデルによって異なり、2通りあります。

■増設ハードディスクドライブが搭載されていない場合および増設ハードディスクドライブ(StandbyDiskあり)が搭載の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、NTFS)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Eドライブ	CD/DVDドライブ

■増設ハードディスクドライブが搭載されている場合（StandbyDiskありを除く）

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ （プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、NTFS）
Dドライブ	増設ハードディスクドライブ （プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS）
Eドライブ	ハードディスクドライブ （プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS）
Fドライブ	CD/DVDドライブ

ドライブ番号の割り当て（Windows 2000の場合）

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」または「ドライブ文字」といいます。
工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。
なお、領域を変更する場合は、システム管理者などディスクの管理に詳しいユーザの元で行ってください。

チェック!!

「ディスクの管理」ではドライブ番号の割り当てられていない領域が存在しますが、不用意に削除しないでください。これは再セットアップする場合に必要な「再セットアップ領域」であるため、ドライブ番号を割り当てていません。この領域の削除方法については、『活用ガイド 再セットアップ編』「PART2 付録」をご覧ください。

参照 ディスクの管理→Windowsのヘルプ

ドライブ番号はモデルによって異なり、2通りあります。

■増設ハードディスクドライブが搭載されていない場合および増設ハードディスクドライブ(StandbyDiskあり)が搭載の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、FAT32)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Eドライブ	CD/DVDドライブ

■増設ハードディスクドライブが搭載されている場合(StandbyDiskありを除く)

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、FAT32)
Dドライブ	増設ハードディスクドライブ (プライマリスレーブ、第1パーティション、全ディスク領域、NTFS)
Eドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Fドライブ	CD/DVDドライブ

エラーチェックおよびスキャンディスクの操作手順

◎Windows XPおよびWindows XP Homeの場合

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック

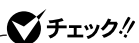
3 「ファイル」→「プロパティ」をクリック

4 「ツール」タブをクリック

5 「チェックする」ボタンをクリック

6 「チェックディスクオプション」を選択する

メモ

「ファイルシステムエラーチェックを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。
「不良セクタをスキャンし、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

7 「開始」ボタンをクリック

チェック!!

定期的にエラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

◎Windows 2000の場合

1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック

2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック

3 「ファイル」→「プロパティ」をクリック

4 「ツール」タブをクリック

5 「チェックする」ボタンをクリック

6 「チェックディスクのオプション」を選択する

メモ

「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。「不良なセクタをスキャンし、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

7 「開始」ボタンをクリック

チェック!!

定期的にエラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

ハードディスクドライブ(IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合)

使用上の注意

ハードディスクドライブを使用するにあたっての基本的な注意については、「ハードディスクドライブ」「使用上の注意」(P.76)を参照してください。

◎バックアップについて

本機は、2つのハードディスクドライブに常に同じデータを保持することによってデータ保護を行いますが、システムファイル自体に問題がある場合はバックアップした他方のハードディスクドライブからもWindowsを立ち上げることができなくなります。そのため、重要なデータファイルについては、添付の「Masty Data Backup」などによって、CD/DVD、またはサーバなどにバックアップを取ることをお勧めします。

参照 バックアップ→『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」、Windowsのヘルプ

◎不良セクタ、スキップセクタについて

スキップセクタについては、スキャンディスクやデフラグでファイルを正常に戻した内容もバックアップされますので、RAIDを意識することなくご利用いただけます。

チェック!!

IDE-RAIDボードを搭載した本機では、ハードディスクパスワード機能は利用できません。

参照 ハードディスクパスワード機能→「PART2　システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)」「Securityの設定」(P.150)、「PART3　システム設定(スリムタワー型の場合)」「Securityの設定」(P.177)

RAIDについて

本機は、ミラーリング(RAID 1)機能によって、2台のハードディスクドライブに同じ内容のデータをリアルタイムで書き込みます。そのため、片方のハードディスクドライブが故障しても、データはもう一方のハードディスクドライブにも書き込まれるため、作業を継続して行うことができ、ハードディスクドライブ内の情報を安全に保存できます。

チェック!!

本機はミラーリング(RAID 1)のみに対応しています。

メモ

RAID(Redundant Arrays of Independent(Inexpensive) Disks)とは、ハードディスクドライブなどの記憶装置を複数台組み合わせて同じ容量のデータを安全に保存したり、読み書きの速度を高速化するための技術です。RAIDには、以下の種類(RAIDレベル)があります。

- RAID 0(ストライピング)
- RAID 1(ミラーリング)
- RAID 0+1(RAID 10)(ミラー化ストライピング)
- RAID 5(分散パリティ付ストライピング)

ドライブ番号の割り当て

IDE-RAIDボードを搭載したモデルの工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次のとおりです。

チェック!!

- **IDE-RAIDボードを搭載したモデルのハードディスク構成は、ミラーリングを行う2台のハードディスクドライブを1台として見せているため(ディスクアレイの構築)、RAID用の増設ハードディスクドライブ(第2チャネルのマスタ)の内容およびパーティション構成は、エクスプローラでは見れません。エクスプローラからは、ハードディスクドライブ(第1チャネルのマスタ)のみ確認できます。**
- **「ディスクの管理」ではドライブ番号の割り当てられていない領域が存在しますが、不用意に削除しないでください。これは再セットアップする場合に必要な「再セットアップ領域」であるため、ドライブ番号を割り当てていません。**
  この領域の削除方法については、『活用ガイド　再セットアップ編』「PART2　付録」をご覧ください。

■Windows XPの場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ（第1チャネルのマスタ、第一パーティション、20GB、NTFS）
Dドライブ	ハードディスクドライブ（第1チャネルのマスタ、第二パーティション、残り全ての領域、NTFS）
Eドライブ	CD/DVDドライブ

■Windows 2000の場合

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ（第1チャネルのマスタ、第一パーティション、20GB、FAT32）
Dドライブ	ハードディスクドライブ（第1チャネルのマスタ、第二パーティション、残り全ての領域、NTFS）
Eドライブ	CD/DVDドライブ

FastCheckモニタリングユーティリティについて

「FastCheckモニタリングユーティリティ」は、ディスクアレイの管理をするユーティリティです。工場出荷時では、スタートアップ時に起動するように設定されています。通常は、タスクトレイのアイコンとして表示されます。ディスクアレイの管理をする場合は、このアイコンをダブルクリックしてください。なお、「FastCheckモニタリングユーティリティ」の詳細については、「Mate/Mate R 電子マニュアル」の「「FastCheckモニタリングユーティリティ」について」をご覧ください。

チェック!!

本機を起動中は、「FastCheckモニタリングユーティリティ」を終了しないでください。

◎ディスクアレイの同期化

ミラーリングしている2つのハードディスクドライブの内容が完全に一致するかを確認するため、定期的にディスクアレイの同期化(シンクロナイズ)を行う必要があります。ディスクアレイの同期化は、ハードディスクドライブの物理的エラーを自動的にチェックしますので、できるだけ定期的に行ってください。

1 **「FastCheckモニタリングユーティリティ」の「アレイ」タブをクリック**

2 **「アレイ」アイコンをクリック**

3 **マウスの右ボタンをクリック**

4 **「シンクロナイズ」をクリック**

5 「はい」ボタンをクリック

ディスクアレイの同期化が始まります。

チェック!!

- 同期化中は「FastCheckモニタリングユーティリティ」を終了させないでください。
- ディスクアレイの同期化で不一致が検出された場合、以降の作業に悪影響がありますので本機の信頼性を確保するために、必要なデータのバックアップを行った後、できるだけ早く再セットアップを行ってください。
- 同期化を開始する場合は、電源の省電力設定をオフにしてください。

参照
- 再セットアップ前の注意→「再セットアップ前の注意事項」(P.89)
- 再セットアップ→『活用ガイド　再セットアップ編』

◎エラーメッセージが出た場合

ハードディスクドライブが故障した旨のエラーメッセージが出た場合は、できるだけ早く新しいハードディスクドライブと交換した後、ディスクアレイを再構築(リビルド)する必要があります。ハードディスクドライブの交換およびディスクアレイの再構築については、ご購入元、またはNECにご相談ください。なお、事前に「FastCheckモニタリングユーティリティ」の「アレイ」タブで、故障したハードディスクドライブのチャネル番号を確認しておいてください。

チェック!!

本機はHot Swap(電源が入ったまま故障したハードディスクドライブを交換)に対応していませんので、ハードディスクドライブを交換する場合は、本体の電源をいったん切り、電源プラグをコンセントから抜く必要があります。電源を入れたままハードディスクドライブの交換を行うと、本機が故障したり、感電の原因になりますので十分ご注意ください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

再セットアップ前の注意事項

IDE-RAIDボードを搭載したモデルにおいて再セットアップを行う場合、Windowsの再セットアップ作業に入る前に以下の作業を完了しておいてください。

参照 再セットアップ→『活用ガイド 再セットアップ編』

◎IDE-RAIDのArray情報が正しく設定されている場合

1 **電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面の後で、「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm)Utility..」と表示されたら【Ctrl】+【F】を押す**

正常にFastBuild (tm)Utilityが起動すると、以下の「Main Menu」が表示されます。

```
[Main Menu]
Auto Setup······································[1]
View Drive Assignments··························[2]
Define Array····································[3]
Delete Array····································[4]
Rebuild Array···································[5]
Controller Configuration························[6]
```

2 **「Define Array」の【3】を押す**

以下のように表示されていることを確認(※)してください。

※「RAID Mode」が「Mirror」、「Status」が「Functional」となっていることを確認する
(Capacity(MB):ハードディスク容量)

[Define Array Menu]

Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity(MB)	Status
* Array 1	Mirror	2	xxxxx	Functional
Array 2	…	…	…	…
Array 3	…	…	…	…
Array 4	…	…	…	…

チェック!!

1で「Define Array」の【3】を押し、以下のメッセージが表示された場合は、ハードディスクドライブが故障している可能性があります。ご購入元、またはNECに相談ください。

```
No Disk is found. Please check the
Power and data cable connection.
<Press Any Key to Exit>
```

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

3 【ESC】を押して「Main Menu」に戻る

4 再び【ESC】を押す

以下のメッセージが表示されます。

```
System is going to REBOOT!
Are You Sure?
Y — Reboot / Any Key — Back
```

5 「Reboot」の【Y】を押す

再起動します。

以上の確認を行うことができれば、正常なミラーリング設定がされていますので、以降 継続して再セットアップを行ってください。再セットアップについては、『活用ガイド　再セットアップ編』をご覧ください。

◎RAIDのArray情報が正しく設定されていない場合

1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面の後で、「Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm)Utility..」と表示されたら【Ctrl】＋【F】を押す

正常にFastBuild (tm)Utility が起動すると、「Main Menu」が表示されます。

2 「Define Array」の【3】を押す

以下のように表示されていることを確認(※)してください。
※「RAID Mode」が「Mirror」、「Status」が「Functional」となっていることを確認する

(Capacity(MB):ハードディスク容量)

3 「Status」が「Functional」表示とは異なる場合(※)は、以下の操作を行う

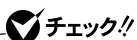
※「Status」が「Critical / ---- 」と表示されている

[Define Array Menu]

Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity(MB)	Status
* Array 1	Mirror	2	xxxxx	Critical
Array 2	…	…	…	…
Array 3	…	…	…	…
Array 4	…	…	…	…

4 【ESC】を押して「Main Menu」に戻る

5 「Main Menu」で「Delete Array」の【4】を押す

「Delete Array Menu」でArray情報が 無い場合には、8へ進んでください。

[Delete Array Menu]

Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity(MB)	Status
* Array 1	Mirror	2	xxxxx	Critical
Array 2	…	…	…	…
Array 3	…	…	…	…
Array 4	…	…	…	…

6 Array情報を削除するために【Delete】を押す

以下のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to delete this array?
Press Ctrl-Y to Delete, or others to abort...
```

7 「Save」の【Ctrl】+【Y】を押す

チェック!!

複数のArrayがCritical表示されている場合はすべてのArray情報を削除してください。

8 【ESC】を押す

[Main Menu]へ戻ります。

9 「Auto Setup」の【1】を押す

[Auto Setup Options Menu]が表示されます。

Auto Setup Options Menu		
Optimize Array for	:	Performance
Typical Application to use	:	DESKTOP

10 「Optimize Array for」の設定を【→】を押して「Security」へ変更(ミラーリングの設定)する

11 【Ctrl】+【Y】を押す

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be
Duplicated to another?(Yes/No)
Y — Create and Duplicate
N — Create Only
```

12 「Create and Duplicate」の【Y】を押す

以下のメッセージが表示されます。

Please Select A Source Disk

Channel:ID	Drive Model	Capacity(MB)
1:xx	xxxx	xxxx
2:xx	xxxx	xxxx

13 【Enter】を押す

以下のメッセージが表示されます。

```
Start to duplicate the image...
Do you want to continue?  (Yes / No)
Y - Continue, N - Abort
```

14 【Y】を押す

以下のメッセージが表示されます。

```
Please Wait While Duplicating The Image
[                ] xx % Completed
```

チェック!!

Duplicate作業には30～60分程度かかります。Duplicate終了後、以下のメッセージが表示されます。

```
Disk duplication completed...
Any Key to Reboot the System!
```

15 適当なキーを押す

再起動します。

チェック!!

以上の操作を行い、「Status」の「Critical」の表示が変わらない場合は、ハードディスクドライブが故障している可能性があります。ご購入元、またはNECに相談ください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

以降継続して再セットアップを行ってください。再セットアップについては、『活用ガイド　再セットアップ編』をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

使用上の注意

- フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- フロッピーディスクは、利用するときにだけフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用によりフロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類の媒体があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	Windows XPおよびWindows XP Home		Windows 2000	
		読み書き	フォーマット	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×	×	×
	720KB	○	×	○	○
2HD	1.2MB	○※	×	○※	○※
	1.44MB	○	○	○	○

※1.2MBの媒体を利用する場合、3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。セットアップ方法については、「補足説明」に記載されています。以下の方法でご覧ください。

〈Windows XPおよびWindows XP Homeの場合〉

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「補足説明」

〈Windows 2000の場合〉

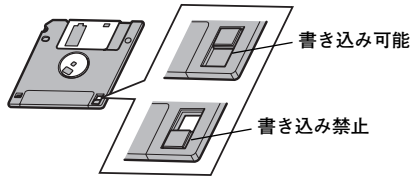
「スタート」ボタン→「プログラム」→「補足説明」

参照 フロッピーディスクのフォーマット→Windowsのヘルプ

メモ

- 1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。
- 未使用のフロッピーディスクをフォーマットするには多少時間がかかります。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。

CD/DVDドライブ

CD/DVDドライブ使用上の注意

CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

CD/DVDの機能

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では、音楽用のCDを再生することもできます。
CD-R/RW(Compact Disc Recordable/Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。
CD-R/RW with DVD-ROMドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-R/RWドライブの機能に加えて、DVD(Degital Versatile Disc)に記憶された音楽や動画映像を再生することもできます。
DVDマルチドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの機能に加えて、DVD-R(DVD-Recordable)、DVD-RW(DVD-ReWritable)およびDVD-RAM(DVD-Randam Access Memory)へ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDやDVDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないように注意してください。

再生できるCDおよびDVDの種類

本機に標準で内蔵されているCD/DVDドライブでは、ISO9660に準拠したCD、DVD、または、下記表中の規格のCD、DVDを再生・表示することができます。本機のCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたは、DVDマルチドライブを使ってDVDを再生するには、「WinDVD」をご利用ください。使用方法については、『活用ガイド ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「WinDVD」をご覧ください。

チェック!!

- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す[CD ロゴ]マークの入ったディスクを使用してください。
- CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、日本国内向け(リージョン2)および地域制限なし(リージョン0(ゼロ))以外のリージョンコードのDVDは再生できません。

■CDのサイズ

本体の型	CDのサイズ	
	8センチ	12センチ
スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型	○	○
Mate R スリムタワー型	○※	○

※Mate R スリムタワー型で8センチCDを利用する場合は、横置きにしてください。

■DVDのサイズ

DVDのサイズ	
8センチ	12センチ
○	○

チェック!!

市販の12cmCDへの変換アダプタを使用すると、ドライブやCDを破損することがありますので、使用しないでください。

■CDの規格

規　格	概　要
CD-DA（CD-Digital Audio）	一般の音楽CD。プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM（CD-Read Only Memory）	パソコンで利用するための情報が入ったCD
CD-ROM XA（CD-ROM eXtended Architecture）	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された動画用のCD-ROM
CD Extra（CD PLUS）	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
Photo CD　マルチセッション	写真を最大100枚まで記録できる追記型のCD
CD-R（CD-Recordable）	書き込みができるCD。マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW（CD-ReWritable）	書き込み/書き換えができるCD

CD-RおよびCD-RWへの書き込みとCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。
本機に内蔵されているCD-R/RW with DVD-ROMドライブは、CD-R/RWドライブの機能に加えて、DVD-ROMの再生機能を加えたものです。

◎使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。また、本機ではOrange Book Part3 Volume2と準拠したHigh-Speed CD-RWディスクへの書き込み/書き換えおよびフォーマット(4倍速/8倍速/10倍速に対応)もできます(DVDマルチドライブの場合は4倍速/8倍速)。また、本機では記憶容量650MBおよび700MBのCD-RおよびCD-RWが利用できます。
書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

◎使用するソフトウェア

本機のCD/DVDドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、「RecordNow DX」または「DLA」が必要です。使用方法については『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

チェック!!

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどでは音楽CDを作成できない場合があります。

DVD-R、DVD-RWおよびDVD-RAMへの書き込みとDVD-RWおよびDVD-RAMのフォーマット

本機に内蔵されているDVDマルチドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの機能に加えて、DVD-Rへの書き込み機能とDVD-RWおよびDVD-RAMの書き換え機能を加えたものです。

◎使用できるディスク

DVD-Rについては、DVDレコーダブルディスク規格DVD-R for General Ver.2.0に準拠したディスクをお使いください。DVD-RWについては、DVDリライタブルディスク規格DVD-RW for General Ver.1.1に準拠したディスクをお使いください。DVD-RAMについては、DVD-RAM規格Ver.2.1に準拠したディスクをお使いください。

■DVD-R、DVD-RWおよびDVD-RAMの書き込み/書き換え/フォーマットについて

DVDの種類	面・層	片面	片面	両面	両面
	記録容量	2.6GB	4.7GB	5.2GB	9.4GB
	サイズ	120mm	120mm	120mm	120mm
DVD-R	読み込み		○		
	書き込み		○		
DVD-RW	読み込み		○		
	書き込み/書き換え		○		
	フォーマット		○		
DVD-RAM	読み込み	○	○	○	○
	書き込み/書き換え	×	○	×	○
	フォーマット	×	○	×	○

チェック!!

- ディスク・ドライブ・記録方式等の状況によっては、記録・再生性能を保証できない場合があります。
- 本機はDVD-Rの2倍速の書き込みに対応しています。
- DVD-RおよびDVD-RAMディスクには、著作権法の定めにより私的録画補償金およびコピープロテクション(CPRM:Copy Protection for Recordable Media)が含まれたディスク(for Video)と含まれないディスク(for Data)がありますので、ご購入の際ご注意ください。
- 両面9.4GB DVD-RAMディスクは4.7GB/面ごとの記録・再生、両面5.2GB DVD-RAMディスクは2.8GB/面ごとの再生、両面2.8GB DVD-RAMディスクは1.4GB/面ごとの再生が可能です。同時に両面への記録・再生はできませんので、ディスクを取り出して、裏返しにし、装着してから使用してください。
- DVD-RAMには、カートリッジなし、TYPE1(ディスク取り出し不可)、TYPE2(ディスク取り出し可能)、TYPE4(ディスク取り出し可能)があります。本機ではカートリッジなし、あるいはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ(TYPE2、TYPE4)のみ扱えるので、ご購入の際ご注意ください。
- 本機にて、DVD+RおよびDVD+RWディスクによる再生、書き込みおよびフォーマットはできませんのでご注意ください。

◎使用するソフトウェア

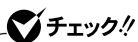
本機のDVDマルチドライブを使って、DVD-Rへの書き込み、DVD-RWおよびDVD-RAMへのフォーマット/書き換えをするには、「RecordNow DX」または「DLA」が必要です。使用方法については『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

チェック!!

- 書き込みに失敗したDVD-Rは再生できなくなります。書き損じによるDVD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうか確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のDVD-ROMドライブ、DVD-R/RWドライブ、DVD-RAM/R/RWドライブなどでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、DVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

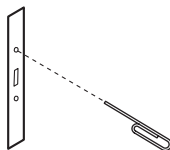
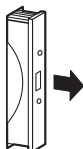
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

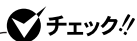
■スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型の場合

本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

1 細くて丈夫な針金を用意する

ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。

2 非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す

ディスクトレイが15mmほど飛び出します。

3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す

4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む

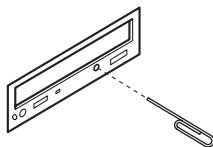
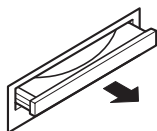
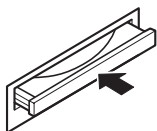
■Mate R スリムタワー型の場合

チェック!!

本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

1 **細くて丈夫な針金を用意する**

ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。

2 **非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す**

ディスクトレイが15mmほど飛び出します。

3 **ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す**

4 **ディスクトレイをドライブの中に押し込む**

サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は外部のオーディオ機器などから再生することができます。

参照 ボリュームコントロールのヘルプ

チェック!!

- Mate R スリムタワー型をご利用の場合、再生には外付けスピーカが必要です。
- スリムタワー型に内蔵のスピーカは、システムのアラームを通知することを考慮して実装しています。オーディオ再生等の際は、別途スピーカ、またはヘッドフォンをご使用ください。

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリューム(スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型の場合)または「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

チェック!!

- メニューバーの「オプション」→「トーン調整」を選択すると「トーン」ボタンがボリュームコントロール画面に追加表示され、それをクリックするとトーン調整画面で調整が行えますが、本機では「そのほかの調整」のみ調整可能です。その場合、高音、低音の調整はできません。
- Windows XPおよびWindows XP Homeの場合、「オプション」→「トーン調整」が選択できない場合、以下の手順を行ってください。
  ①「オプション」→「プロパティ」をクリック
  ②「音量の調節」で「再生」をクリック
  ③「表示するコントロール」で全てのチェックをつける
  ④「OK」ボタンをクリック

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードおよびLAN用モジュラーコネクタを搭載したモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

◎接続前の確認

LANボードおよびLAN用モジュラーコネクタを搭載したモデルでは、1000BASE-T、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機のLAN用モジュラーコネクタとLANボードとの組み合わせは次の表のとおりです。
本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。1000BASE-Tで使用するには、カテゴリ5以上(エンハンスドカテゴリ5以上を推奨)のリンクケーブルが必要です。

参照 「Mate/Mate R電子マニュアル」「機能仕様一覧」

LANの組み合わせ		スリムタワー型(高拡張性タイプ)	スリムタワー型	Mate R スリムタワー型
LAN用モジュラーコネクタ(マザーボード組み込み)	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T(ギガビットイーサネット対応)	◎	◎	
	100BASE-TX/10BASE-T			◎
LANボード(PCIスロット挿入)	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T(ギガビットイーサネット対応)			○
	100BASE-TX/10BASE-T	○	○※	

◎…標準装備　○…選択可能
※ ご使用の機種がMA24X/B-Dの場合は、選択できません。

◎接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

チェック!!

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(1000Mbps/100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(Half Duplex)に設定してください。

LANの設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows XPのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目をご覧ください。

◎ネットワークソフトウェアをセットアップする

チェック!!

工場出荷時は、ネットワークプロトコル(TCP/IP)が設定されています。

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 「その他」の「マイ ネットワーク」をクリック

3 「ネットワークタスク」の「ネットワーク接続を表示する」をクリック

4 「ローカル エリア接続」をクリック

チェック!!

増設LANボードを搭載しているモデルの場合は、接続アイコンの右側に表示されるアダプタ名を参考にして、設定したいネットワーク接続を選択してください。それぞれのアダプタ名は以下のようになります。

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉

- 内蔵LANアダプタ(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection
- 増設LANボード
  Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

〈スリムタワー型の場合〉

- 内蔵LANアダプタ(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) 82540EM Based Network Connection
- 増設LANボード
  Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

〈Mate R スリムタワー型の場合〉

- 内蔵LANアダプタ
  Intel(R) PRO/100 VE Network Connection
- 増設LANボード(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) PRO/1000 MT Desktop Adapter

5 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック

ここで「サービス」、「プロトコル」、「クライアント」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。

メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

6 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

7 「システムのタスク」の「システム情報を表示する」をクリック

8 「コンピュータ名」タブをクリック

9 「変更」ボタンをクリック

10 「コンピュータ名の変更」の画面が表示されたら、「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」(Windows XPの場合)に必要な情報を入力する

メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

11 「OK」ボタンをクリック

12 再起動を促すメッセージが表示された場合はコンピュータを再起動する

以上で完了です。

LANの設定(Windows 2000の場合)

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows 2000のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 2000 Professionalファーストステップガイド』のネットワーク関連の項目をご覧ください。

◎ネットワークソフトウェアをセットアップする

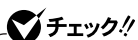
チェック!!

工場出荷時は、ネットワークプロトコル(TCP/IP)が設定されています。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

2 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリック

3 「ローカルエリア接続」をクリック

チェック!!

増設LANボードを搭載しているモデルの場合は、接続アイコンをクリックして左側のウインドウに表示されるアダプタ名を参考にして、設定したいネットワーク接続を選択してください。それぞれのアダプタ名は以下のようになります。

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
- 内蔵LANアダプタ(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection
- 増設LANボード
  Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

〈スリムタワー型の場合〉
- 内蔵LANアダプタ(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) 82540EM Based Network Connection
- 増設LANボード
  Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

〈Mate R スリムタワー型の場合〉
- 内蔵LANアダプタ
  Intel(R) PRO/100 VE Network Connection
- 増設LANボード(ギガビットイーサネット対応)
  Intel(R) PRO/1000 MT Desktop Adapter

4 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック

ここで「サービス」、「プロトコル」、「クライアント」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。

メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システムの管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

5 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック

6 「システム」をダブルクリック

7 「ネットワークID」タブをクリック

8 「プロパティ」ボタンをクリック

9 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に、必要な情報を入力する

メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

10 入力を終えたら「OK」ボタンをクリック

11 再起動を促すメッセージが表示された場合はコンピュータを再起動する

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。

リモートパワーオン	スリムタワー型 (高拡張性タイプ)	スリムタワー型	Mate R スリムタワー型
電源が切れている状態から電源を入れる	○	○	×
スタンバイ状態から復帰する	○	○	○
休止状態から復帰する	○	○	○

チェック!!

- 前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows XPを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- 増設LANボードではリモートパワーオン機能は使用できません。これらのLANボードが属するネットワークセグメントにはマジックパケット(リモートパワーオンのための特殊なパケット)を送信しないようにしてください。

Gスリム スリムタワー

◎電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

電源が切れている状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

1 **電源を入れる**

2 **「NEC」のロゴ画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す**

3 **以下の設定を行う**

〈スリムタワー型（高拡張性タイプ）の場合〉
メニューバーの「Power」→「On PME」→「Power On」に設定する

〈スリムタワー型の場合〉
メニューバーの「Advanced」→「Power Management Setup」→「Resume On PME#」を「Enabled」に設定する

4 **【F10】を押す**

5 **以下の設定を行う**

〈スリムタワー型（高拡張性タイプ）の場合〉
「Yes」を選択し、【Enter】を押す

〈スリムタワー型の場合〉
【Enter】を押す

以上で完了です。

チェック!!

必要に応じて、「PART2　システム設定（スリムタワー型（高拡張性タイプ）の場合）」「Securityの設定」の「Password On Boot」（P.151）、または「PART3　システム設定（スリムタワー型の場合）」「Securityの設定」の「Password Check」（P.177）の設定も行ってください。

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオンで復帰する場合は、次の「スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定」へ進んでください。

◎スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、設定の際は管理者(Administrator権限を持ったユーザ)が行ってください。

1 「デバイスマネージャ」を開き、「ネットワークアダプタ」をダブルクリック

参照 「デバイスマネージャ」の開き方→「デバイスマネージャの開き方」(P.8)

2 以下のアダプタを選択し、ダブルクリック

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection

〈スリムタワー型の場合〉
Intel(R) 82540EM Based Network Connection

〈Mate R スリムタワー型の場合〉
Intel(R) PRO/100 VE Network Connection

3 「電源の管理」タブをクリック

4 次の3つの項目にチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

5 「OK」ボタンをクリック

6 「デバイスマネージャ」を閉じる

7 「OK」ボタンをクリック

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。

リモートパワーオン	スリムタワー型(高拡張性タイプ)	スリムタワー型	Mate R スリムタワー型
電源が切れている状態から電源を入れる	○	○	×
スタンバイ状態から復帰する	○	○	○
休止状態から復帰する	○	○	○

チェック!!

- 前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows 2000を起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- 増設LANボードではリモートパワーオン機能は使用できません。これらのLANボードが属するネットワークセグメントにはマジックパケット(リモートパワーオンのための特殊なパケット)を送信しないようにしてください。

Gスリム スリムタワー

◎電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

電源が切れている状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

1 電源を入れる

2 「NEC」のロゴ画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す

3 以下の設定を行う

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉

メニューバーの「Power」→「On PME」→「Power On」に設定する

〈スリムタワー型の場合〉

メニューバーの「Advanced」→「Power Management Setup」→「Resume On PME#」を「Enabled」に設定する

4 【F10】を押す

5 以下の設定を行う

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
「Yes」を選択し、【Enter】を押す

〈スリムタワー型の場合〉
【Enter】を押す

以上で完了です。

チェック!!

必要に応じて、「PART2 システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)」「Securityの設定」の「Password On Boot」(P.151)、または「PART3 システム設定(スリムタワー型の場合)」「Securityの設定」の「Password Check」(P.177)の設定も行ってください。

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオンで復帰する場合は、次の「スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定」へ進んでください。

◎スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、設定の際はAdministrator権限を持ったユーザが行ってください。

チェック!!

本機能を利用するためには、Service Packがインストールされている必要があります。Service Packを削除した場合は、本機能は利用できません。また、Service Packを再追加することはできませんので、『活用ガイド 再セットアップ編』をご覧になり、再セットアップを行ってください。

1 「デバイスマネージャ」を開き「ネットワークアダプタ」をダブルクリック

参照 「デバイスマネージャ」の開き方→「デバイスマネージャの開き方」(P.8)

2 以下のアダプタを選択し、ダブルクリック

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
Intel(R) PRO/1000 CT Network Connection

〈スリムタワー型の場合〉
Intel(R) 82540EM Based Network Connection

〈Mate R スリムタワー型の場合〉
Intel(R) PRO/100 VE Network Connection

3 「電源の管理」タブをクリック

4 以下の2つのチェックボックスにチェックを入れる

・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

5 「詳細設定」タブをクリックし、以下の設定を行う

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型の場合〉
・プロパティの「PMEをオンにする」を選択し、値を「アクションなし」にする
・プロパティの「Wake on 設定」を選択し、値を「Magic Packet」に設定する

〈Mate Rスリムタワー型の場合〉
プロパティの「PMEをオンにする」を選択し、値を「アクションなし」に設定する

6 「OK」ボタンをクリック

7 「デバイスマネージャ」を閉じる

8 「OK」ボタンをクリック

以上で完了です。

FAXモデムボード

FAXモデムボードが標準で内蔵されているモデルでは、データ通信機能などを利用できます。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。ATコマンドについては、『ATコマンド』(ここをクリック)をご覧ください。

FAXモデムボードについて

ここでは、FAXモデムボードの機能を説明します。

◎データ通信機能

本機にインストールされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

・ ハイパーターミナル

その他のデータ通信ソフトウェアでは動作しないことがあります。

◎FAX通信機能

FAXアプリケーションを使用することにより、本機のデータをダイレクトにFAXに送信できます。また、本機でFAXを受信でき、効率的にFAX送受信をサポートします。

◎最高56,000bpsまでの各種通信

FAXモデムは、米国CONEXANT SYSTEMS社等提唱のK56flex、およびV.90を採用しています。K56flex、およびV.90では、受信時最高56,000bps、送信時最高33,600bpsのデータ通信が可能です。
電話回線を利用して、最高56,000bpsの全二重データ通信と最高14,400bpsの半二重FAX通信ができます。
K56flexおよびITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

FAXモデムボードを使用するときの注意

◎適用電話回線について

回線は、電話回線(以降、加入電話回線と呼びます)、総合デジタル通信網(ISDN)、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。→「**技術基準等適合認定について**」(**P.9**)

加入電話回線以外と接続すると、FAXモデムボードやパソコン本体等を破損させることがあります。
コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用のときは、正常なデータの送受信ができないことがあります。
FAXモデムボードは、ファクシミリ通信網には対応していません。

◎送信レベルについての注意

加入電話回線を使用するときは、送信レベルは工場出荷時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できないときは送信レベルの調整が必要となることがあります。送信レベルの調整は、認定された工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、NECにお問い合わせください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』**

◎通信するときの注意

- 本体にアース線を接続していないときや、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくいことがあります。
- FAXモデムボードに接続できる電話機などは2線式のみです。電話機などの種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。
  また、接続する電話機などによっては、FAXモデムボードが正常に通信できないことがあります。正常に通信できないときは、次のいずれかの方法で正常に通信できるようになります。
  - 接続する電話機などにアース接続用の端子があるときは、アース線をつなぐ。
  - 電話機などに別の電話を接続するためのコネクタがあるときは、接続の順番を変える(加入電話回線==電話機==本機のようにする)。
    接続については、電話機などのマニュアルをご確認ください。
  - モデムによる通信の際は、電話機などを取り外す。
- 次のような接続を行っているときは、モデムによる通信の前に電話機などを使用していないことを確認してください。
  - FAXモデムボードの電話機用モジュラーコネクタに電話機などを接続しているとき
  - 市販の分岐コネクタを使用して電話機などと本機とを加入電話回線に接続しているとき
  - パソコン本体と電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機など(コードレスホン、親子電話)が離れているとき

また、モデムで通信中は電話機などを操作しないようにしてください。電話機などを操作すると、通信が妨害され、切断されることがあります。

・電話機用モジュラーコネクタには、他のモデムを接続しないでください。他の外付けモデムなどが、電話機用モジュラーコネクタに接続されているときは取り外してください。

・FAXモデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは電話装置メーカや保守業者、第1種通信事業者(NTTなど)に確認してください。

・データ通信を行うとき、フロー制御はハードウェア(RTS/CTS)(工場出荷時の設定)に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。

・通信中は、電話機用モジュラーコネクタに接続した電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、受話器から通信中の音が聞こえ、通信が中断されることがあります。

・キャッチホンサービスを利用しているときは、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。キャッチホンIIのサービスを利用すれば、モデムによる通信が切れることはありません。キャッチホンIIについてはNTTにご相談ください。

・FAXを送信する相手が音声応答機能付きのFAXのときは、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。

・電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでFAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を9,600bps以下にしてください。

・海外と直接接続したときは、伝送路の特性のため正常に通信できないことがあります。

・回線の状態によっては希望の通信速度で通信できないことがあります。

・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する場合は、画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるなどの「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをクリックまたはダブルクリックし、表示された画面から「切断」をクリックしてください。

・本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。

・回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。

・構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。

・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。

COMポートの設定について

FAXモデムボードが標準で搭載されているモデルのモデムのポート番号は、変更できません。工場出荷時の状態のままご使用ください。

無線LAN機能

無線LANモデルでは、無線LANによって、離れているコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここでは、無線LANへの接続を簡単に説明します。

無線LAN使用上の注意

・ 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
・ 電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
・ 5GHzまたは2.4GHz無線LAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の5GHzまたは2.4GHz無線LANアクセスポイントなどが必要です。
・ 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。

無線LAN通信での危険性

無線LANはケーブルを使用するLANと違い、電波の届く範囲であればどこからでも、第三者からのデータの盗聴(傍受)または「なりすまし」によるネットワークへの不正アクセスを受ける危険性を持っており、重要なデータの漏洩につながる可能性があります。このような無線LANの使用上の危険を回避するために、以下のセキュリティについての設定を組み合わせて使用することをお勧めします。

チェック!!

・ **以下のセキュリティについての設定をする場合、使用するアクセスポイントなどもこれらの設定に対応している必要があります。**
・ **これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。**

◎盗聴(傍受)を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LANの通信データを暗号化できます。
ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをお勧めします。

◎不正アクセスを防ぐ

・ アクセスポイントと通信機器の両方に任意のネットワーク名(SSID)を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、SSIDを自動的に検出する機能を持った機器を使用されると、SSIDを知られてしまいます。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように設定する必要があります。
・ 接続するパソコンなどのMACアドレス(ネットワークカードが持っている固有の番号)をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります。

◎より高度なセキュリティを行うには(※)

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)機能を利用します。IEEE802.1X/EAP(Extensible Authentication Protocol)規格によるユーザ認証および、従来のWEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号方式TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)を使用することで、より高度なセキュリティを行うことができます。

チェック!!

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器およびネットワーク環境もWPA機能をサポートしている必要があります。

無線LAN製品との接続

本製品と接続できる製品は、以下の通りです(2003年9月現在)。

■無線LAN対応製品

本製品と接続できる無線LAN製品には、無線LAN内蔵PC、レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

接続できる製品の情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC8番街」(http://nec8.com)の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタを合わせる
3. 表示されたメニューの「PC検索(新旧モデル情報/適合情報)」をクリック
4. 「商品の適合検索」をクリック

無線LANの設定

「Mate/Mate R電子マニュアル」の「無線LAN(IEEE802.11a/b/g)について」をご覧になり、設定を行ってください。

USBコネクタ

USB対応機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBコネクタに接続する

◎接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどのインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

メモ

・ 接続してすぐ使うことができるUSB対応機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでからお使いください。
・ USB対応機器は、本機の電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

◎接続するときの注意

・ USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。

・ USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
・ 外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
・ USB機器を接続する場合は、必ずキーボードが接続された状態で行ってください。
・ USB対応周辺機器の、本製品での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページをご覧ください。

◎USB2.0を利用する

本機のUSBコネクタは、USB2.0に対応しています。USB2.0に対応している周辺機器を取り付けることで、USB2.0の転送速度を利用することができます。USB2.0に対応している周辺機器には、外付けのハードディスクドライブやCD-R/RWドライブなどがあります。

■USB2.0を利用する場合の注意

・ USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。
・ 本機でWindows 2000をお使いの場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後、接続しているUSBキーボード／USBマウスが動作するまでに時間がかかることがあります。
・ 本機でWindows 2000をお使いのときに、USB対応機器を接続したままの状態でスタンバイ状態または休止状態にした場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後に「デバイスの取り外しの警告」が表示されることがあります。
  この場合は次の手順を行い、スタンバイ状態または休止状態にする前にUSB対応機器を取り外してください。

1 **USB対応機器が使用中でないことを確認し、タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリック**

2 **表示されたUSB対応機器を選択し、「停止」ボタンをクリック**

表示されるUSB対応機器の例:

・ NEC USB Floppy

3 **「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されたら、「OK」ボタンをクリック**

4 **停止させたUSB対応機器を本体から取り外す**

再度USB対応機器を使用する場合は、スタンバイ状態、または休止状態から復帰後にUSB対応機器を再接続してください。

チェック!!

2000

- 本機でWindows 2000を使用し、スタンバイ状態または休止状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度USB対応機器を抜き差ししてください。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。

◎USBコネクタに機器を取り付ける

1 **USBコネクタ(•⇆または•⇆)にプラグを差し込む**

USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域(タスクトレイ)にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウで行います。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

1　画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリック

「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

2　取り外したい周辺機器名をクリックして、「停止」ボタンをクリック

周辺機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3　「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名をクリックして、「OK」ボタンをクリック

画面右下の通知領域(タスクトレイ)に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
Windows XPをお使いの場合は手順5へ進んでください。
Windows 2000の場合は手順4へ進んでください。

4　「OK」ボタンをクリック

5　「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウを閉じる

これで周辺機器を取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

セキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ/マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。(I/Oロック)
- メモリやPCIボードなどパソコンのハードウェア構成を変更させないようにする。(筐体ロック)
- システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

Gスリム スリムタワー ◎指紋認証の利用

別売の指紋認証ユニット(シリアル)(PK-FP002M)を利用することで、本体の起動時やパスワードの入力を要求されるような場合、かわりに指紋を照合することで、ユーザーの不正使用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。なお、スリムタワー型(高拡張性タイプ)、スリムタワー型ではBIOSレベルの認証(BIOS LOCK)はできません。

参照 指紋認証ユニット(シリアル)(PK-FP002M)に添付のマニュアル

◎ユーザ/スーパーバイザパスワード

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、以下の設定をしてください。

〈スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合〉
「Password On Boot」を「Enabled」に設定する。

〈スリムタワー型の場合〉
「Password Check」を「Always」に設定する。

〈Mate Rスリムタワー型の場合〉
「Security Option」を「System」に設定する。

チェック!!

パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前に各BIOSの「Securityの設定」および『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておくことをおすすめします。

◎I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、USBポートなど)を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションをインストールすることを防止することができます。

参照

- 「PART2　システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)」「Advancedの設定」の「I/Oロック」(P.146)
- 「PART3　システム設定(スリムタワー型の場合)」「Peripheral Setupの設定」の「I/Oロック」(P.175)
- 「PART4　システム設定(Mate R スリムタワー型の場合)」「Integrated Peripheralsの設定」の「I/Oロック」(P.199)

Gスリム　スリムタワー

◎ハードディスクパスワード機能

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することにより、本機以外のパーソナルコンピュータでハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。
また、IDE-RAIDボードを搭載したモデルでは利用できません。

参照

- 「PART2　システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)」「Securityの設定」(P.150)
- 「PART3　システム設定(スリムタワー型の場合)」「Securityの設定」(P.177)

◎筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体カバーをロックし、本体のハードウェア構成の変更や内蔵機器の盗難防止、パスワードの解除防止に役立てることができます。また、ロック付き盗難防止ケーブルを使用することで、本体の開閉や盗難防止にも役立てることができます。
キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しており、別売のオプション(セキュリティケーブル2(PK-SC/CA02))を利用することができます。

◎ケーブルストッパ

キーボードなどのケーブルが抜けるのを防止したり、ケーブル接続した機器の盗難を防止します。

参照 『ハードウェア拡張ガイド』

◎ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「McAfee VirusScan Online」を使用します。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「McAfee VirusScan Online」

マネジメント機能

◎リモートパワーオン機能(Remote Power On 機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。
本体およびLAN ボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはESMPRO/Client Managerなどからのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケット(Magic Packet)を離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン(本機)の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、管理パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア(ESMPRO Client Managerなど)のインストールが必要です。また本機のBIOS設定が必要になります。

参照 **リモートパワーオンの設定→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)」(P.111)、「リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)」(P.114)、「PART2　システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)」「Powerの設定」(P.158)、「PART3　システム設定(スリムタワー型の場合)」「Power Management Setupの設定」(P.172)**

◎ネットワークブート機能(PXE搭載)

クライアントのPCのシステムが起動する前に管理者PCからOS等をロードすることができます。別途、PXE(Preboot eXecution Environment)に準拠した運用管理ソフトウェアが必要です。

チェック!!

IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合、ネットワークブート機能は利用できません。また、スリムタワー型(高拡張性タイプ)をお使いの方でGeForce4を選択しない場合は、BIOSセットアップメニューで設定を行う必要があります。

「Advanced」
「Network Boot Agent」:「Enabled」

◎リモートコントロール/ファイル配信

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作(※)を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、実施することができます。Windows 2000の場合は、本機およびシステム管理者のマシンにそれぞれ市販のリモートコントロールソフトウェア(pcAnywhereなど)が必要です。

※アプリケーションによっては、できないものがあります。

信頼性機能

Gスリム スリムタワー

◎StandbyDisk

XP 2000 ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)の内容を増設ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)に自動的にバックアップします。ハードディスクドライブの障害発生時に増設ハードディスクドライブに最終バックアップしたときの状態に復元できます。増設ハードディスクドライブ(StandbyDiskあり)を搭載したモデルでご利用になれます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk」

スリムタワー Rスリム

◎StandbyDisk Solo

XP 2000 ハードディスク内にある第1パーティション(Cドライブ)の使用領域とほぼ同じ容量をバックアップ先(スタンバイ・エリア)として同パーティション内に確保し、自動的に使用領域をバックアップします。稼動中のシステムに障害が起きた際、スタンバイ・エリアからシステムを起動しシステムを復旧することが可能です。
ハードディスクドライブ(StandbyDisk Soloあり)を搭載したモデルでご利用になれます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo」

◎StandbyDisk Solo RB

StandbyDisk Solo RBは、ハードディスク内にある第1パーティション(Cドライブ)の使用領域とほぼ同じ容量をバックアップ先(以後スタンバイ・エリア)として同パーティション内に確保し、使用領域のバックアップを行います。稼動中のシステムに障害が起きた際、スタンバイ・エリアからシステムを起動することで、ハードウェア障害であるか、あるいはソフトウェア障害であるかを絞り込むことが可能です。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo RB」

Gスリム スリムタワー ◎ミラーリング(RAID 1)機能

XP 2000 2つのハードディスクドライブに同じ内容のデータをリアルタイムで書き込みます。常に同じデータを2つのハードディスクドライブに保持することによってデータを保護しますので、一方のハードディスクドライブに故障があっても、他方のハードディスクドライブで作業を継続することができます。IDE-RAIDボードを搭載したモデルでご利用になれます。また、ハードディスクパスワード機能は利用できません。

参照 「ハードディスクドライブ(IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合)」(P.84)、Mate/Mate R 電子マニュアル「「FastCheckモニタリングユーティリティ」について」

Gスリム スリムタワー ◎ハードディスクドライブ障害時のバックアップ機能

ハードディスクドライブの異常を監視します(SMART機能)。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup」との連携によってバックアップをとることができます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

PART

2

システム設定(スリムタワー型(高拡張性タイプ)の場合)

この章では、スリムタワー型(高拡張性タイプ)のBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup,〈F12〉 to Boot on Network.」(※)と表示されたら、【F2】を押す

以下の画面が表示されます。

※ メニューを日本語に設定した場合は、「〈F2〉:BIOSセットアップメニュー起動、〈F12〉:ネットワークブート」と表示されます。

```
                         PhoenixBIOS Setup Utility
  Main    Advanced    Security    Power    Boot    Exit                    ← メニューバー
                                                     | Item Specific Help
  System Time :                  [hh:mm:ss]          | <Tab>, <Shift-Tab>, or
  System Date :                  [mm/dd/yyyy]        | <Enter> selects field

  Language :                     [English(US)]
  Legacy DisketteA :             [1.44/1.25 MB]
▶ Primary Master                 [××××××]
▶ Primary Slave                  [None]
▶ Secondary Master               [××××××]                                  ← パラメータ
▶ Secondary Slave                [None]
▶ Third Master                   [None]


▶ Keyboard Features
  Boot-time Diagnostic Screen    [Disabled]

  System Memory                  ×××KB
  Extended Memory                ××KB
  BIOS Revision                  ××××××××

 F1  Help    ↑↓Select Item    −/+  Change Values      F9 Setup Defaults
 Esc Exit    ←→Select Menu    Enter Select▶Sub-Menu   F10 Save and Exit    ← キーステータスバー
```

チェック!!

ディスプレイ特性により、「NEC」のロゴ画面が表示されず【F2】を押すタイミングが計れない場合があります。この場合は、本体の電源を入れた直後、キーボード上のNumLockランプが点灯するタイミングで【F2】を2〜3回押してください。

メモ

BIOSセットアップメニューの基本操作

- 【↑】【↓】【←】【→】で設定項目および設定項目内を選択します。
- 「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【Tab】で行います。
- 【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

◎メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説　　明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。（【F10】を押す終了方法と同じ）
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。（【F9】を押す方法と同じ）
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

1 **電源を入れる**

2 **「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup, 〈F12〉 to Boot on Network.」と表示されたら、【F2】を押す**

BIOSセットアップメニューが表示されます。

3 **【F9】を押す**

「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

4 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**

工場出荷時の設定値を読み込みます。

5 **【F10】を押す**

「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

6 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

●System Time(☆)
現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

●System Date(☆)
日付を「月/日/年」で入力します。

●Language(☆)
BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」に設定されています。

●Legacy Diskette A
フロッピーディスクドライブのモードを選択します。
「Disabled」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

設定項目	設定内容	
Legacy Diskette A	Disabled	
	360 Kb	5 1/4"
	1.2 MB	5 1/4"
	720 Kb	3 1/2"
	1.44/1.25 MB	3 1/2"
	2.88 MB	3 1/2"

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●Primary Master

現在マザーボードのIDEインタフェースに接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Primary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。増設ハードディスクドライブが搭載されたモデルなどでは、増設したハードディスクドライブの設定画面になります。

本項目の設定は変更しないでください。

●Secondary Master

プライマリマスタの設定と同様です。工場出荷時に内蔵されているCD/DVDドライブの設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Secondary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。
5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Third Master

本項目の設定は変更しないでください。

● Keyboard Features

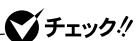
キーボード機能を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
NumLock	Auto /On/Off	起動時にNum Lockを有効にするかどうかを設定します。
Legacy USB Support	Disabled/ Enabled	USBレガシー機能を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

● Boot-time Diagnostic Screen

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Enabled」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。

チェック!!

エラーメッセージが表示された場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」をご覧ください。

● System Memory

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

● Extended Memory

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

● BIOS Revision

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

● Product name

型番が表示されます。

● Serial number

製造番号が表示されます。

Advancedの設定

Advancedの設定

「Advanced」の項目はユーザパスワードで起動したときには変更できません。

●Plug & Play O/S

プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は「Yes」に設定されています。

●APIC interrupt routing

この項目は、「Hyper-Threading Technology」で「Enabled」が選択された場合、表示されません。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Reset Configuration Data

PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

●PCI Configuration

各PCIデバイスの割込み番号(IRQ)を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
PCI IRQ line 1	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 1で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 2	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 2で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 3	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 3で使用するIRQ番号を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

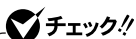
設定項目	設定内容	説　　明
PCI IRQ line 4	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 4で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 5	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 5で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 6	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 6で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 7	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 7で使用するIRQ番号を設定します。
PCI IRQ line 8	Disabled/Auto Select/3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	PCI IRQ line 8で使用するIRQ番号を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

PCI Configurationの設定項目とPCIスロットは、次のように対応しています。

設定項目	スロット
PCI IRQ line 1	PCIスロット1 注意
PCI IRQ line 2	PCIスロット2 注意
PCI IRQ line 3	PCIスロット3
PCI IRQ line 4	−
PCI IRQ line 5	−
PCI IRQ line 6	−
PCI IRQ line 7	−
PCI IRQ line 8	−

注意　RAIDボードを搭載したモデルの場合は、PCIスロット1にRAIDボードが入ります。LANボードを搭載したモデルの場合は、PCIスロット2にLANボードが入ります。

●Cache Memory

本項目の設定は変更しないでください。

●I/O Device Configuration

入出力機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　明
Serial port A（シリアルコネクタ1）	Disabled	シリアルポートAが使用できなくなり（I/Oロック）、割り込みが開放されます。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込みが設定できます。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込みを自動的に設定します。
Base I/O Address	3F8/2F8/3E8/2E8	シリアルポートAのI/Oベースアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ3/IRQ4	シリアルポートAの割込み番号を設定します。
Serial port B（シリアルコネクタ2）	Disabled	シリアルポートBが使用できなくなり（I/Oロック）、割り込みが開放されます。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込みが設定できます。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込みを自動的に設定します。
Base I/O Address	3F8/2F8/3E8/2E8	シリアルポートBのI/Oベースアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ3/IRQ4	シリアルポートBの割込み番号を設定します。
Parallel port（パラレルコネクタ）	Disabled	パラレルポートが使用できなくなり（I/Oロック）、割り込みが開放されます。
	Enabled	パラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割込み番号を設定できます。
	Auto	自動的にパラレルポートを設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説　明
Mode	Output only/ Bi-directional / EPP/ECP	モードを設定します。ご利用のプリンタのモードについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
Base I/O Address	378 /278/3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。「Mode」で「EPP」を選択した場合、設定内容の「3BC」は「178」になります。
Interrupt	IRQ5/ IRQ7	パラレルポートに割込み番号を設定します。
DMA Channel	DMA 1/ DMA 3	パラレルポートがECPモードのときに使用するDMAチャネルを設定します。「Mode」で「ECP」を選択した場合に表示されます。
Floppy Disk Controller	Disabled / Enabled /Auto	フロッピーディスクコントローラの使用を設定します。「Disabled」ではフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります（I/Oロック）。
Base I/O Address	Primary / Secondary	フロッピーディスクコントローラのI/Oベースアドレスを設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

メモ I/Oロック

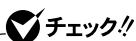
I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする（ロックする）機能です。BIOSセットアップメニューのI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブA、シリアルポートA、シリアルポートB、パラレルポートです。

●Advanced Video Control

使用するビデオの設定をします。

設定項目	設定内容	説　　明
Video Memory Size	1Mb/4Mb/8Mb/16Mb/ 32Mb	内蔵グラフィックが使用するメモリサイズを設定します。
Default Primary Video Adapter	PCI/ AGP	使用するグラフィックカードの設定をします。「AGP」ではAGPスロットに挿入されたグラフィックカードを、「PCI」ではPCIスロットに挿入された別売のグラフィックカードを優先して使用します。
Graphics Aperture	256Mb/128Mb/ 64Mb /32Mb	内蔵グラフィックが使用するグラフィックアパーチャーサイズを設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●IDE Controller Setting

本項目の設定は変更しないでください。

●QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

●Sound

サウンドのリソースを設定します。

設定項目	設定内容	説　　明
Sound	Disabled/ Enabled	サウンド機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●USB2.0

設定項目	設定内容	説　明
USB2.0	Enabled /Disabled	USB2.0機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●Hyper-Threading Technology

設定項目	設定内容	説　明
Hyper-Threading Technology	Enabled / Disabled	搭載しているCPUのHyper-Threading機能を利用できるように設定します。Windows XP Professionalモデルでは「Enabled」に、それ以外のモデルでは、「Disabled」に設定されています。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

チェック!!

Windows XP Professionalモデル以外のモデルをご使用の場合は、本項目の設定を変更しないでください。また、Windows XP Professionalモデルで、設定を変更する場合は、システムを再セットアップする必要があります。『活用ガイド　再セットアップ編』をご覧になり、再セットアップを行ってください。

●Internal LAN

設定項目	設定内容	説　明
Internal LAN	Enabled /Disabled	内蔵LAN機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●Network Boot Agent

設定項目	設定内容	説　　明
Network Boot Agent	Enabled / Disabled	ネットワークブート機能の有効/無効を設定します。IDE-RAIDボードを搭載したモデルは「Disabled」、それ以外は「Enabled」に設定されています。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
Event Log Capacity	Space Available	
Event Log Validity	Valid	
View DMI Event Log	(設定項目はありません)	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No /Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Enabled /Disabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI(Desktop Management Interface)とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

●Summary screen

「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。
項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

チェック!!

スーパバイザパスワード/ユーザパスワード、BIOS LOCK、ハードディスクパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておくことをおすすめします。

●Supervisor Password Is

スーパバイザパスワードの設定状態を表示します。工場出荷時は「Clear」です。

設定項目	設定内容	説　　明
Supervisor Password Is	(設定項目はありません)	「Set」が表示された場合、スーパバイザパスワードが設定されています。 「Clear」が表示された場合、スーパバイザパスワードが設定されていません。

●User Password Is

スーパバイザパスワードと同じ表示です。

●Set Supervisor Password

スーパバイザパスワードを設定します。

設定項目	設定内容	説　　明
Set Supervisor Password	(パスワードを設定します)	項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとスーパバイザパスワードの設定画面になります。

●Set User Password(☆)

スーパバイザパスワードと同じ設定です。

チェック!!

ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

メモ

スーパバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。
スーパバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

●Password On Boot

起動時にパスワード入力を行うかの設定をします。リモートパワーオン機能を利用するときは、「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」に設定します。工場出荷時は「Disabled」です。

●Fixed disk boot sector

ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。

●Diskette Access

下記の設定の後、「Supervisor」に設定するとスーパバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。工場出荷時は「Supervisor」です。

・ スーパバイザ/ユーザパスワードを設定
・「Password On Boot」を「Enabled」に設定

●Network Boot Setting

この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Password On Boot」で「Enabled」に設定されていてもリモート起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定して「Password On Boot」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

チェック!!

ここでのリモート起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC（本機）をリモートパワーオン機能により起動することを指します。

参照 リモートパワーオン機能→「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」（P.128）

●Virus check reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

●System backup reminder

起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

●Cover Open Check

「Enabled」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります(ルーフカバーオープン検知機能)。なお、メッセージを解除する場合は、「Disabled」に設定して再起動してください。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

●Assign HDD Password

ハードディスクドライブ(プライマリマスタ、プライマリスレーブ)にパスワードを設定します。ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)とハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)の2つがあります。【Enter】を押すとハードディスクマスタパスワードの設定画面が表示され、ハードディスクマスタパスワードを設定すると、ハードディスクユーザパスワードの設定画面が表示されます。次にプライマリマスタまたはプライマリスレーブの設定を【+】【−】で行います。なお、プライマリマスタまたはプライマリスレーブの設定を変更されないよう、スーパバイザパスワードを設定してください。

チェック!!

ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

・ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)

ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「パスワードの解除」の「ハードディスクマスタ/ハードディスクユーザパスワードの場合」(P.155)をご覧ください。

・ ハードディスクユーザパスワード（HDD User Password）
ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することにより、本機以外でハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

チェック!!

- ハードディスクマスタパスワードを設定していないとハードディスクユーザパスワードを設定することはできません。
- 設定したパスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意してください。

設定項目	設定内容	説　　明
Primary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	ハードディスクドライブ（プライマリマスタ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。
Primary Slave HDD Password	Enabled/ Disabled	増設ハードディスクドライブ（プライマリスレーブ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。増設ハードディスクドライブを搭載したモデルの場合に表示されます。
Secondary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	ハードディスクドライブ（セカンダリマスタ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。
Secondary Slave HDD Password	Enabled/ Disabled	増設ハードディスクドライブ（セカンダリスレーブ）へ、ハードディスクパスワードを設定します。増設ハードディスクドライブを搭載したモデルの場合に表示されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

本機（プライマリマスタにインストールされたWindows）を起動する場合、「Primary Master HDD Password」を「Enabled」にしても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを入力する必要はありません。

パスワードの解除

■スーパバイザ/ユーザパスワードの場合

スーパバイザ/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Supervisor Password」または「Set User Password」にパスワードを入れて、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。なお、スーパバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

チェック!!

無断でパスワードが解除されることを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。（P.130）

■ハードディスクマスタ/ハードディスクユーザパスワードの場合

ハードディスクマスタ/ハードディスクユーザパスワードでは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Assign HDD Password」にハードディスクマスタパスワードを入れ、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。

Powerの設定

Powerの設定

省電力の設定を行うための設定項目について説明します。
(☆)マークがついている設定項目はユーザパスワードでBIOSセットアップメニューを起動したときに変更可能な項目です。
ACPI対応のオペレーティングシステム(Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000、Windows 98 SE)をご利用の場合、(△)マークがついている設定項目は無効になります。特に「System Switch」は、ACPI対応のオペレーティングシステムの電源管理の項目で設定してください。

参照 電源管理の設定→Windowsのヘルプ

●System Switch(△)(☆)

「System Switch」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は、「Power Button」に設定されています。

・「Power Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
・「Sleep Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってサスペンド/レジュームまたはスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「System Switch」の設定を「Power Button」(工場出荷時)から「Sleep Button」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

〈正しく電源を切る方法〉

正しく電源を切る方法については、各オペレーティングシステムの「PART1　本体の構成各部」「電源」の「電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)」をご覧ください。

〈強制的に電源を切る方法〉

ソフトウェアなどのエラーでWindowsが操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが…」をご覧ください。

●Resume On Modem Ring(△)(☆)

「On」に設定すると、シリアルポートに接続したデバイスで本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は、「Off」に設定されています。

●Resume On Time(△)(☆)

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間(Resume Time)で本機をレジュームまたはスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

●Resume Time(△)(☆)

レジュームする時刻を設定します。

●On PME（☆）

PCIデバイス（LANボード等）によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。

メモ

PME（PCI Power Management Event）とは、管理者のパソコンからクライアントPC（本機）をリモートパワーオン機能で起動することです。

参照 **リモートパワーオン機能→「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」（P.128）、「PART1　本体の構成各部」の「LAN（ローカルエリアネットワーク）ボード」「リモートパワーオン機能の設定（Windows XPおよびWindows XP Homeの場合）」（P.111）、「リモートパワーオン機能の設定（Windows 2000の場合）」（P.114）**

●Restore On AC/Power Loss

AC電源（AC100V）が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説　明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源は入りません。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態で、AC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源が入ります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

Bootの設定

Bootの設定

「Bootの設定」はユーザパスワードで起動したときには、変更できません。
起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

●起動順位(次の表が表示されます)

設定内容	説　明
+Removable Devices	本機を起動するデバイスの順番を決めます。設定したデバイスの上から順番に起動されます。
ATAPI CD-ROM Drive	
+Hard Drive	
Network Boot	
IBA GE Slot 0208 vXXXX	

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【+】を押すとリストの上側に移動し、【-】を押すとリストの下側に移動します。
複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。

チェック!!

- 使用環境にあわない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。
- 使用環境によっては、上記内容の項目が増えることがあります。また、「IBA GE Slot 0208 vXXXX」は、「Network Boot Agent」で「Disabled」が選択されていると表示されません。

●Removable Devices

取り外し可能なデバイスのうち、内蔵フロッピーディスクドライブの検索する順番を設定します。本機は、フロッピーディスクドライブが1台なので設定を変更する必要はありません。

●Hard Drive

ハードディスクドライブの検索する順番を設定します。
本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。

PART

3

システム設定(スリムタワー型の場合)

この章では、スリムタワー型のBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

1 **電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す**

以下の画面が表示されます。

```
                AMIBIOS EASY SETUP UTILITY - VERSION X.XX
 Main    Advanced    Security    Boot    Exit                          ← メニューバー
  System Time              11 : 20 : 05            [ Setup Help ]
  System Date              Aug 26 2002 Mon

▶ Primary IDE Master       ××××××
▶ Primary IDE Slave        Not Installed
▶ Secondary IDE Master     ××××××
▶ Secondary IDE Slave      Not Installed

  Floppy Drive A           1.44 MB 3 1/2                               ← パラメータ

  Processor Type           ××××××
  Processor Speed          ××××MHz
  Total Memory             ××××MB
  Cache Size               ×××KB
  BIOS Version             Re l. ××××××
  Product Name             ××-×××××
  Serial Number            ×××××××××

 F1 : Help    ↑ ↓ : Select Item    +/− : Change Values      F9 : Optimal Defaults
 Esc : Exit   ← → : Select Menu    Enter : Select ▶Sub-Menu  F10 : Save & Exit   ← キーステータスバー
```

チェック!!

ディスプレイ特性により、「NEC」のロゴ画面が表示されず【F2】を押すタイミングが計れない場合があります。この場合は、本体の電源を入れた直後、BIOSセットアップメニューが表示されるまで、【F2】を数回押してください。

メモ

BIOSセットアップメニューの基本操作

・【↑】【↓】【←】【→】で設定項目および設定項目内を選択します。

・【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説　　明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。(【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Default Settings	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。(【F9】を押す方法と同じ)

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

1 **電源を入れる**

2 **「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す**

BIOSセットアップメニューが表示されます。

3 **【F9】を押す**

「Load Default Settings」と表示されます。

4 **【Enter】を押す**

工場出荷時の設定値を読み込みます。

5 **【F10】を押す**

「Save current settings and exit」と表示されます。

6 **【Enter】を押す**

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

日時の設定や、ハードディスクのようなIDE機器の設定など、BIOSの基本的な項目を設定します。(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

●System Time(☆)

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

●System Date(☆)

日付を「月/日/年/曜日(表示のみ)」で入力します。

●Primary IDE Master

現在マザーボードのIDEインタフェースに接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Primary IDE Slave

プライマリマスタの設定と同様です。本機では、増設ハードディスクドライブが搭載されたモデルなどでは、増設ハードディスクドライブの設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Secondary IDE Master

プライマリマスタの設定と同様です。工場出荷時に内蔵されているCD/DVDドライブの設定画面となります。

本項目の設定は変更しないでください。

●Secondary IDE Slave

プライマリマスタの設定と同様です。本機では、5インチベイに増設されるIDEデバイスの設定画面になります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Floppy Drive A(☆)

フロッピーディスクドライブAのモードを選択します。「Not Installed」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

選択項目	選択内容
Floppy Drive A	Not Installed 1.2MB 5 1/4 720KB 3 1/2 1.44MB 3 1/2 2.88MB 3 1/2

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●Processor Type

搭載されているCPUの内容を表示します。

●Processor Speed

搭載されているCPUの速さ(クロック数)を表示します。

●Total Memory

搭載されているメモリの総容量を表示します。

●Cache Size

搭載されているCPUの内部キャッシュの容量を表示します。

●BIOS Version

BIOSのリビジョン番号を表示します。

●Product Name

型番が表示されます。

●Serial Number

製造番号が表示されます。

Advanced CMOS Setupの設定

Advanced CMOS Setupの設定

「Advanced」→「Advanced CMOS Setup」では、BIOS固有の詳細な機能について設定します。

選択項目		選択内容	説　明
Event Log			この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと、サブメニューの設定画面になります。
	View DMI event log	(表示項目です)	【Enter】を押すと、DMIイベントログ情報(履歴)が表示されます。
	Clear all DMI event logs	No Yes	DMIイベントログの消去を設定します。「Yes」に設定し設定を保存して終了すると、DMIイベントログを消去します。再起動後は「No」になります。
	Event logging	Disabled Enabled	「Enabled」でイベントログを記録します。
	Mark DMI events as read	No Yes	DMIイベントログの既読を設定します。「Yes」に設定すると、それまでのDMIイベントログが既読状態になります。「Yes」に設定後は「No」に戻ります。
Quick Boot		Disabled Enabled	コンピュータ起動時のクイックブートの使用を設定します。「Enabled」の場合、一部のテストをスキップするので、本機の起動時間が短縮されます。
Silent Boot		Disabled Enabled	起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Disabled」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
BootUp Num-Lock	Off On Auto	コンピュータ起動時にNum Lockするかを設定します。「On」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされます。「Off」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされません。なお、Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000では、Windows上での設定が優先されます。
APIC Interrupt Mode	Disabled Enabled	APIC機能の有効/無効を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
ASF Function	Disabled Enabled	ASF機能の有効/無効を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Cover Open Check	Disabled Enabled	「Enabled」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります（ルーフカバーオープン検知機能）。なお、メッセージを解除する場合は、「Disabled」に設定して再起動してください。
CPU FAN Mode	Mode1 Mode2	CPU FANのモードを設定します。

※網かけの部分　　　 は、工場出荷時の設定値です。

Advanced Chipset Setupの設定

Advanced Chipset Setupの設定

「Advanced」→「Advanced Chipset Setup」では、チップセット固有の詳細な機能について設定します。

選択項目	選択内容	説　　明
USB Controller	Disabled 2 USB Ports 4 USB Ports	USBコントローラーを設定します。「2 USB Ports」では前面のUSBコネクタ1およびUSBコネクタ2が利用可能になります。「4 USB Ports」ではすべてのUSBコネクタが利用可能になります。「Disabled」ではUSB機器が使用できません(I/Oロック)。
USB 2.0 Controller Support	Disabled Enabled	USB2.0コントローラーの有効/無効を設定します。
USB Legacy Support	Disabled Keyboard+Mouse All Device	USB接続のキーボードおよびマウスのレガシー機能の有効/無効を設定します。
On-Chip IDE	Disabled Primary Secondary Both	内蔵用のIDEアダプタを使用するかを設定します。「Primary」ではセカンダリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Secondary」ではプライマリマスタ/スレーブ接続のIDEデバイスが、「Disabled」ではすべてのIDEデバイスが使用できなくなります(I/Oロック)。
AC'97 Audio	Auto Disabled	AC'97 Audio機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
AC'97 Modem	Auto Disabled	AC'97　Modem機能の有効/無効を設定します。
Onboard LAN	Disabled Enabled	内蔵LAN機能の有効/無効を設定します。
Network Boot Agent	Disabled Enabled	ネットワークブート機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

Power Management Setupの設定

Power Management Setupの設定

「Advanced」→「Power Management Setup」では、省電力の設定を行うための設定項目について説明します。
ACPI対応のオペレーティングシステム(Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000、Windows 98 SE)をご利用の場合、(△)マークがついている設定項目は無効になります。特に「Suspend Time Out (Minute)」、「Power Button Function」は、ACPI対応の各オペレーティングシステムの電源管理の項目で設定してください。

メモ

電源管理の設定→Windowsのヘルプ

選択項目	選択内容	説　　明
ACPI Standby State	S1/POS S3/STR	ACPIモードのスリープ状態を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Power Management/APM(△)	Disabled Enabled	BIOSによる省電力機能(電源管理がAPMモード)の使用を設定します。本項目の設定は変更しないでください。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Suspend Time Out（Minute）（△）	Disabled、1、2、4、8、10、20、30、40、50、60	本機の省電力機能のタイムアウト時間を分単位で設定します。本機への操作をしない状態で設定した時間が経過すると、スタンバイ状態になります。「Disabled」の場合スタンバイしません。本項目の設定は変更しないでください。
Power Button Function（△）	On/Off Suspend	詳細については「「Power Button Function」について」（P.172）をご覧ください。
Restore on AC/Power Loss	Power Off Power On Last State	AC電源（AC100V）が失われ、電源を再投入したときの復旧状態を設定します。「Power Off」はAC電源投入時に電源は入らないように、「Power On」はAC電源投入時に電源が入るように、「Last State」はAC電源が失われたときの状態に設定します。
Resume On Ring（△）	Disabled Enabled	シリアルポートに接続したデバイスで電源を入れる、または、スタンバイから復帰するかを設定します。
Resume On PME#	Disabled Enabled	PCIデバイス（LANボード等）によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Enabled」に設定します。
Resume On RTC Alarm（△）	Disabled Enabled	内蔵時計（RTC:リアルタイムクロック）による、電源オン、スタンバイからの復帰を設定します。
RTC Alarm Date（△）	15 [Every Day、1～31]	内蔵時計により電源を入れる日を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
RTC Alarm Hour（△）	12 [00～23]	内蔵時計により電源を入れる時間（1時間単位）を設定します。
RTC Alarm Minute（△）	30 [00～59]	内蔵時計により電源を入れる分（1分単位）を設定します。
RTC Alarm Second（△）	30 [00～59]	内蔵時計により電源を入れる秒（1秒単位）を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

◎「Power Button Function」について

「Power Button Function」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は、「On/Off」に設定されています。

- 「On/Off」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
- 「Suspend」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「Power Button Function」の設定を「On/Off」（工場出荷時）から「Suspend」に変更した場合、または「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

〈正しく電源を切る方法〉

正しく電源を切る方法については、各オペレーティングシステムの「PART1　本体の構成各部」「電源」の「電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)」をご覧ください。

〈強制的に電源を切る方法〉

ソフトウェアなどのエラーでWindowsが操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが…」をご覧ください。

Peripheral Setupの設定

Peripheral Setupの設定

「Advanced」→「Peripheral Setup」では、周辺機器の機能について設定します。

選択項目	選択内容	説　明
Plug and Play Aware O/S	No Yes	プラグアンドプレイ対応のOSかどうかを設定します。
Clear NVRAM	No Yes	PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値の初期化を設定します。「Yes」で初期化します。ただし、再起動時には「No」に設定されます。
Primary Graphics Adapter	Internal VGA AGP/Int-VGA AGP/PCI PCI/AGP PCI/Int-VGA	プライマリのグラフィックカードの設定をします。次の順序で検索します。 「Internal VGA」:本体内蔵グラフィック 「AGP/Int-VGA」:AGPスロット挿入のグラフィックボード→本体内蔵グラフィック 「AGP/PCI」:AGPスロット→PCIスロット挿入のグラフィックボード 「PCI/AGP」:PCIスロット→AGPスロット挿入のグラフィックボード 「PCI/Int-VGA」:PCIスロット挿入のグラフィックボード→本体内蔵グラフィック
OnBoard FDC	Auto Disabled Enabled	内蔵フロッピーディスクコントローラを設定します。「Disabled」を設定するとフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります(I/Oロック)。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
OnBoard Serial PortA	Auto、Disabled、3F8/COM1、2F8/COM2、3E8/COM3、2E8/COM4	シリアルポートA（COMポート、シリアルコネクタ）の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがシリアルポートを使用できないようにします（I/Oロック）。
OnBoard Serial PortB	Auto、Disabled、3F8/COM1、2F8/COM2、3E8/COM3、2E8/COM4	シリアルポートBを設定します。シリアルポートAと同じ内容です。
OnBoard Parallel Port	Auto、Disabled、378、278、3BC	パラレルポート（プリンタポート、パラレルコネクタ）の設定をします。「Auto」の場合は空きリソースが自動的に割り当てられます。「Disabled」に設定すると、他のデバイスにリソースを開放し、PnP対応OSがパラレルポートを使用できないようにします（I/Oロック）。「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」、「EPP+ECP」の場合、選択内容の「3BC」は選択不可能となります。
Parallel Port Mode	Normal、Bi-Dir、EPP、ECP、EPP+ECP	パラレルポートの動作モードを設定します。ご利用のプリンタのモードについてはプリンタのマニュアルをご覧ください。
EPP Version	1.9 1.7	Parallel Port ModeのEPP Versionを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」、「EPP+ECP」の場合に設定可能となります。
Parallel Port IRQ	5 7	パラレルポートで使用するIRQを設定します。「OnBoard Parallel Port」が「378」、「278」、「3BC」の場合に設定可能となります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Parallel Port DMA Channel	0 1 3	パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。以下の場合に設定可能となります。 ・「OnBoard Parallel Port」の設定が「378」、「278」、「3BC」の場合 ・「Parallel Port Mode」の設定が「ECP」、「EPP+ECP」の場合

メモ I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューの「Advanced」→「Peripheral Setup」または「Advanced Chipset Setup」で、以下のI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブ(OnBoard FDC)、シリアルポート(OnBoard Serial Port)、パラレルポート(OnBoard Parallel Port)、USBポート(USB Controller)です。

Hardware Monitor Setupの設定

Hardware Monitor Setupの設定

「Advanced」→「Hardware Monitor Setup」では、システムの状態を表示します。

選択項目	選択内容	説　　明
CPU VID	（表示項目です）	CPUやFANなどのシステムの状態を表示します。
+ 2.5V		
Vccp		
+ 3.3V		
+ 5.0V		
+12.0V		
HVCC（+3.3VSB）		
System Temperature		
CPU Temperature		
CPU Fan Speed		
Power Fan Speed		

Securityの設定

Securityの設定

Securityでは、スーパバイザパスワードおよびユーザパスワードの設定をします。パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、6文字以内でなければなりません。また、大文字/小文字の区別はありません。(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

チェック!!

- **スーパバイザパスワード/ユーザパスワード、BIOS LOCK、ハードディスクパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておくことをおすすめします。**
- **ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。**

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

選択項目	選択内容	説　明
Password Check(☆)	Setup Always	パスワードを入力する場面を設定します。「Setup」ではBIOSセットアップメニュー起動時に、「Always」ではシステム起動時とBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力を要求します。
Set Supervisor Password	(パスワード入力)	スーパバイザパスワードの設定を行います。設定した場合、BIOSセットアップメニュー起動時にスーパバイザパスワードを入力する必要があります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Set User Password(☆)	(パスワード入力)	ユーザパスワードの設定を行います。スーパバイザパスワードが設定されていないときは設定できません。

ハードディスクパスワードについて

選択項目		選択内容	説　　明
Set Master HDDs Security Password			この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと、サブメニューの設定画面になります。
	Set Pri-Master HDD Password	(入力項目です)	ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)へ、ハードディスクマスタパスワードを設定します。
	Set Sec-Master HDD Password	(入力項目です)	増設ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)へ、ハードディスクマスタパスワードを設定します。増設ハードディスクドライブを搭載したモデルの場合に表示されます。
Set User HDDs Security Password			この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと、サブメニューの設定画面になります。
	Set Pri-Master HDD Password	(入力項目です)	ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)へ、ハードディスクユーザパスワードを設定します。
	Set Sec-Master HDD Password	(入力項目です)	増設ハードディスクドライブ(プライマリスレーブ)へ、ハードディスクユーザパスワードを設定します。増設ハードディスクドライブを搭載したモデルの場合に表示されます。

チェック!!

ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』**

メモ

- ハードディスクマスタパスワード（HDD Master Password）
  ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「パスワードの解除」(P.180)をご覧ください。

チェック!!

ハードディスクユーザパスワードを忘れたときに備えて、必ずハードディスクマスタパスワードを設定しておいてください。

- ハードディスクユーザパスワード（HDD User Password）
  ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することにより、本機以外でハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

チェック!!

- ハードディスクユーザパスワードの解除方法については、後述の「パスワードの解除」(P.180)をご覧ください。
- 設定したパスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意してください。

パスワードの解除

■スーパバイザ/ユーザパスワードの場合

スーパバイザ/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Supervisor Password」または「Set User Password」にパスワードを入れて、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。なお、スーパバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』「PART4 付録」の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

チェック!!

無断でパスワードが解除されることを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.130)

■ハードディスクマスタ/ハードディスクユーザパスワードの場合

ハードディスクマスタ/ハードディスクユーザパスワードでは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Master HDDs Security Password」または「Set User HDDs Security Password」にパスワードを入れ、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。

Bootの設定

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

メモ

各設定内容で起動する装置は次の通りです。

- Disabled …………… 使用しない
- IDE-0~3 …………… 工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ

  IDE-0:Primary Master(ハードディスクドライブ)

  IDE-1、IDE-2、IDE-3は設定しないでください。
- Floppy ……………… 工場出荷時に内蔵されているフロッピーディスクドライブ
- CD/DVD …………… 工場出荷時に内蔵されているC/DVDドライブ
- BBS-x(Network) … 工場出荷時に内蔵されているLANボード
- BBS-x(RAID) ……… 工場出荷時に内蔵されているIDE-RAIDボード

選択項目	選択内容	説　　明
1st	Disabled IDE-0 Floppy CD/DVD BBS-0(Network)	本機を起動するデバイスの順番を決めます。設定したデバイスの上から順番に起動されます。
2nd	Disabled IDE-0 Floppy CD/DVD BBS-0(Network)	
3rd	Disabled IDE-0 Floppy CD/DVD BBS-0(Network)	

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

チェック!!

- 使用環境にあわない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。
- 使用環境によっては、上記内容の項目が増えることがあります。

PART

4

システム設定(Mate R スリムタワー型の場合)

この章では、Mate R スリムタワー型のBIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

1 電源を入れた直後に表示される「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す

以下の画面が表示されます。

```
Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
 Main   Advanced   Defaults   Security   PC Health   Exit
----------------------------------------------------------------------
 Date (mm : dd : yy) :        Mon , : Aug : 26 2002  | Item Help
 Time (hh : nn : ss) :        10 : 25 : 1            | Menu Level ▶
                                                     | Change the day, month
▶ IDE Primary Master          ××××××                 | year and century
▶ IDE Primary Slave           None                   |
▶ IDE Secondary Master        ××××××                 |
▶ IDE Secondary Slave         None                   |
                                                     |
 Drive A                      1.44, MB 3.5 in.       |
 Floppy 3 Mode Support        Disabled               |
                                                     |
 BIOS Version                 ××××××××               |
 Product Name                 ××-×××××               |
 Serial Number                ×××××××××              |
                                                     |
 Base Memory                  640K                   |
 Extended Memory              ××××××××K              |
 Total Memory                 ××××××××K              |
----------------------------------------------------------------------
↑↓→←: Move  Enter : Select  +/−/PU/PD : Values  F10 : Save  Esc : Exit  F1 : General Help
            F5 : Previous Values                F9 : Default Setting
```

メニューバー
パラメータ
キーステータスバー

チェック!!

ディスプレイ特性により、「NEC」のロゴ画面が表示されず【F2】を押すタイミングが計れない場合があります。この場合は、本体の電源を入れた直後、BIOSセットアップメニューが表示されるまで【F2】を数回押してください。

メモ

BIOSセットアップメニューの基本操作

- 【↑】【↓】【←】【→】で設定項目および設定項目内を選択します。
- 「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【Tab】で行います。
- 【Enter】で設定項目を表示します。
- 【+】【−】で設定項目を移動します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説　　明
Save & Exit Setup	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit Without Saving	変更した内容を保存せずに終了します。
Discard Changes	変更前の値に戻します。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

1 電源を入れる

2 「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup 〈F12〉 to Boot on Network」と表示されたら、【F2】を押す

BIOSセットアップメニューが表示されます。

3 【F9】を押す

「load Default Setting (Y/N)?」と表示されます。

4 【Y】を押し、【Enter】を押す

工場出荷時の設定値を読み込みます。

5 【F10】を押す

「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?」と表示されます。

6 【Y】を押し、【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

日時の設定や、ハードディスクののようなIDE機器の設定など、BIOSの基本的な項目を設定します。(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

●Date (mm:dd:yy)(☆)

日付を「曜日(表示のみ)/月/日/年」で入力します。

●Time (hh:mm:ss)(☆)

現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

●IDE Primary Master

現在マザーボードのIDEインタフェースに接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すと設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●IDE Primary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。本機では、増設ハードディスクドライブなどを接続して利用することはできません。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●IDE Secondary Master

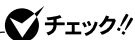
プライマリマスタの設定と同様です。工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの設定画面となります。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●IDE Secondary Slave

プライマリマスタの設定と同様です。本機では、CD-ROMドライブなどを接続して利用することはできません。

チェック!!

本項目の設定は変更しないでください。

●Drive A（☆）

フロッピーディスクドライブAのモードを選択します。「None」にするとフロッピーディスクドライブが使用できなくなります。(I/Oロック)

選択項目	選択内容
Drive A	None 360K, 5.25 in. 1.2M, 5.25 in. 720K, 3.5 in. 1.44M, 3.5 in. 2.88M, 3.5 in.

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●Floppy 3 Mode Support

フロッピーディスクドライブを3モード（720KB、1.2MB、1.44MB）対応にするドライブを選択します。

選択項目	説明
Disabled	フロッピーディスクを3モード対応にしない。
Drive A	Aドライブのフロッピーディスクを3モード対応にする。
Drive B	Bドライブのフロッピーディスクを3モード対応にする。本項目を選択しないでください。
Both	AドライブとBドライブのフロッピーディスクを3モード対応にする。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●BIOS Version

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

●Product Name
型番が表示されます。

●Serial Number
製造番号が表示されます。

●Base Memory
基本メモリの容量を表示します。

●Extended Memory
搭載されている拡張メモリの容量を表示します。

●Total Memory
搭載されているメモリの総容量を表示します。

Advanced BIOS Featuresの設定

Advanced BIOS Featuresの設定

「Advanced」→「Advanced BIOS Features」では、BIOS固有の詳細な機能について設定します。(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

メモ

各設定内容で起動する装置は次の通りです。

- Floppy ………… 工場出荷時に内蔵されているフロッピーディスクドライブ
- LS120 ………… スーパーディスクドライブ等のATAPIリムーバブルメディアデバイス
- Hard Disk-0〜3　工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ
  Hard Disk-0：Primary Master(ハードディスクドライブ)
  Hard Disk-1、Hard Disk-2、Hard Disk-3は設定しないでください。
- CDROM ……… 工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ
- ZIP100 ………… ZIPドライブ等のATAPIリムーバブルメディアデバイス
- LAN …………… 工場出荷時に内蔵されているLANボード
- Disabled ……… 使用しない

選択項目	選択内容	説　明
CPU L1 & L2 Cache	Disabled Enabled	CPUの内部キャッシュ(L1)および外部キャッシュ(L2)を有効/無効を設定します。
Quick Power On Self Test	Disabled Enabled	コンピュータ起動時のクイックブートの使用を設定します。「Enabled」の場合、一部のテストをスキップするので、本機の起動時間が短縮されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Hard Disk Boot Priority	1.Pri.M (HD name) 2.Bootable Add-in Cards	起動するハードディスクの優先順位を設定します。「Bootable Add-in Cards」は、外付けのSCSIボードなどからの起動になります。
First Boot Device	Floppy LS120 Hard Disk CDROM name ZIP100 Legacy Lan Onboard Lan Lan (PCI1) Lan (PCI2) Lan (PCI3) Disabled	デバイスの優先順位を指定します。起動順位はFirst Boot Deviceに指定したディスク装置から順番に起動されます。
Second Boot Device	Floppy LS120 Hard Disk CDROM name ZIP100 Legacy Lan Onboard Lan Lan (PCI1) Lan (PCI2) Lan (PCI3) Disabled	デバイスの優先順位を指定します。起動順位はSecond Boot Deviceに指定したディスク装置から順番に起動されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Third Boot Device	Floppy LS120 Hard Disk CDROM name ZIP100 Legacy Lan Onboard Lan Lan（PCI1） Lan（PCI2） Lan（PCI3） Disabled	デバイスの優先順位を指定します。起動順位はThird Boot Deviceに指定したディスク装置から順番に起動されます。
Boot Other Device	Disabled Enabled	「First Boot Device」から「Third Boot Device」で設定された機器で起動できない場合、他のデバイスから起動します。
Boot Up NumLock Status	Off On	コンピュータ起動時にNum Lockするかを設定します。「On」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされます。「Off」の場合、接続されているキーボードの種類に関わらず、起動時にNum Lockされません。Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000では、Windows上での設定が優先されます。
ATA 66/100 Msg	Disabled Enabled	ハードディスクドライブをUltra ATA 66/100モードで使用している確認のメッセージの表示/非表示を設定します。
Typematic Rate Setting	Disabled Enabled	キーリピート間隔の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

4 システム設定（Mate R スリムタワー型の場合）

選択項目	選択内容	説　　明
Typematic Rate (Chars/Sec)	6 、8、10、12、15、20、24、30	キーボードのキーを押しつづけた場合に、1秒間に入力される文字数を設定します。「Typematic Rate Setting」で「Enabled」を選択した場合に設定可能になります。
Typematic Delay (Msec)	250 、500、750、1000	キーボードのキーを押しつづけた場合に、何秒後にリピート入力が実行されるかを設定します。「Typematic Rate Setting」で「Enabled」を選択した場合に設定可能になります。
APIC Mode	Disabled Enabled	APIC機能の有効/無効を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
HDD S.M.A.R.T Capability	Disabled Enabled	ハードディスクドライブに対してSMART(Self-Monitoring, Analysis, And Reporting Technology)機能を設定します。「Enabled」の場合、ハードディスクドライブの状態を監視して、異常を検知します。SMART機能に対応したハードディスクドライブが必要です。
Full Screen LOGO Show	Disabled Enabled	「Disabled」に設定すると起動時にBIOSチェック情報を表示します。「Enabled」にするとNECのロゴ画面が表示されます。
DMI Event Log	Disabled Enabled	「Enabled」でDMIイベントログを記録します。

※網かけの部分　　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Clear All DMI Event Log	No Yes	DMIイベントログの消去を設定します。消去する（「Yes」）に設定し設定を保存して終了すると、DMIイベントログを消去します。再起動後は消去しない（「No」）になります。
View DMI Event Log	（表示項目です）	【Enter】を押すと、DMIイベントログ情報（履歴）が表示されます。
Mark DMI Events as Read	（表示項目です）	【Enter】を押すと、"Mark DMI Event Log (Y/N)?"と表示されます。「Y」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

Advanced Chipset Featuresの設定

Advanced Chipset Featuresの設定

「Advanced」→「Advanced Chipset Features」では、チップセット固有の詳細な機能について設定します。

選択項目	選択内容	説　　明
System BIOS Cacheable	Disabled Enabled	システムBIOS ROMをキャッシュメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。
Video BIOS Cacheable	Disabled Enabled	ビデオRAMをキャッシュメモリにコピーして使用するかどうかを設定します。
Delayed Transaction	Disabled Enabled	ISAバスアクセス中にPCIバスを解放するかどうかを設定します。
Delay Prior to Thermal	4 Min、8 Min、16 Min、32 Min	本項目の設定は変更しないでください。
On-Chip VGA	Enabled Disabled	内蔵ビデオアダプタの使用を設定します。本項目の設定は変更しないでください。
On-Chip Frame Buffer Size	1MB 8MB	ビデオアダプタで使用するメインメモリサイズを設定します。

※網かけの部分　　　　は、工場出荷時の設定値です。

Integrated Peripheralsの設定

Integrated Peripheralsの設定

「Advanced」→「Integrated Peripherals」では、周辺機器の機能について設定します。

選択項目	選択内容	説　明
IDE DMA transfer access	Disabled Enabled	IDE機器のDMA転送モードの有効/無効を設定します。
IDE Primary Master PIO	Auto /Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4	Primary Masterに接続したIDE機器(ハードディスクドライブ)のPIOモードを設定します。
IDE Primary Slave PIO	Auto /Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4	Primary Slaveに接続したIDE機器のPIOモードを設定します。
IDE Primary Master UDMA	Disabled Auto	Primary Masterに接続したIDE機器(ハードディスクドライブ)のUDMAモードの有効/無効を設定します。
IDE Primary Slave UDMA	Disabled Auto	Primary Slaveに接続したIDE機器のUDMAモードの有効/無効を設定します。
IDE Secondary Master PIO	Auto /Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4	Secondary Masterに接続したIDE機器(CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ)のPIOモードを設定します。
IDE Secondary Slave PIO	Auto /Mode 0/Mode 1/Mode 2/Mode 3/Mode 4	Secondary Slaveに接続したIDE機器のPIOモードを設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
IDE Secondary Master UDMA	Disabled Auto	Secondary Masterに接続したIDE機器（CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ）のUDMAモードの有効/無効を設定します。
IDE Secondary Slave UDMA	Disabled Auto	Secondary Slaveに接続したIDE機器のUDMAモードの有効/無効を設定します。
USB 2.0 Controller Support	Enabled Disabled	USB2.0コントローラーの有効/無効を設定します。
USB Controller	USB 1 USB 1 & USB 2 Disabled	USBコントローラーを設定します。「USB 1」では本体背面のUSBコネクタのみが使用可能になります。「USB 1 & USB 2」ではすべてのUSBコネクタが利用可能になります。「Disabled」ではUSB機器が使用できません（I/Oロック）。
Legacy USB Keyboard support	Disabled Enabled	USB接続のキーボードのレガシー機能の有効/無効を設定します。
Legacy USB Mouse support	Disabled Enabled	USB接続のマウスのレガシー機能の有効/無効を設定します。
AC97 Audio	Auto Disabled	AC97 Audio機能の有効/無効を設定します。
AC97 Modem	Auto Disabled	AC97 Modem機能の有効/無効を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Init Display First	PCI Slot Onboard	内蔵ビデオアダプタとPCIスロットにグラフィックボードに装着した場合、どちらを優先して使用するかを設定します。「PCI Slot」ではPCIスロットに装着したグラフィックボード、「Onboard」では内蔵ビデオアダプタを優先して使用します。
IDE HDD Block Mode	Disabled Enabled	IDE HDDのブロックモードの有効/無効を設定します。
Onboard LAN Control	Disabled Enabled	内蔵のLAN機能の有効/無効を設定します。
Onboard Lan Boot ROM	Disabled Enabled	ネットワークブート機能の有効/無効を設定します。
Onboard Serial Port 1	Disabled、3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、Auto	シリアルポートAのI/OポートアドレスとIRQを設定します。
Onboard Serial Port 2	Disabled 、3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、Auto	シリアルポートBのI/OポートアドレスとIRQを設定します。本項目の設定は変更しないでください。
UART Mode Select	IrDA ASKIR Normal	「Onboard Serial Port 2」の設定が「Disabled」以外の場合、設定可能です。本項の設定は変更しないでください。
RxD, TxD Active	Hi, Hi Hi, Lo Lo, Hi Lo, Lo	「UART Mode Select」の設定が「Normal」以外の場合、設定可能です。本項目の設定は変更しないでください。
IR Transmision Delay	Disabled Enabled	
UR2 Duplex Mode	Full Half	

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Use IR Pins	RxD2, TxD2 IR-Rx2Tx2	「UART Mode Select」の設定が「Normal」以外の場合、設定可能です。本項目の設定は変更しないでください。
Onboard Parallel Port	Disabled、378/IRQ7、278/IRQ5、3BC/IRQ7	パラレルポートのI/Oポートアドレスと IRQを設定します。
Parallel Port Mode	SPP EPP ECP ECP+EPP Normal	パラレルポートの動作モードを設定します。 「SPP」:Standard Parallel Portを指定します。 「EPP」:Enhanced Parallel Portを指定します。 「ECP」:Extended Capabilities Parallel Portを指定します。 「ECP+EPP」:ECPとEPPの両方のモードを指定します。 「Normal」:一方向のみ通常の速度での転送を指定します。
EPP Mode Select	EPP1.9 EPP1.7	パラレルポートのEPPモードを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「EPP」「ECP+EPP」の場合に設定可能です。
ECP Mode Use DMA	1 3	パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。「Parallel Port Mode」の設定が「ECP」「ECP+EPP」の場合に設定可能です。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
AC-Power Lost	Off On Former-Sts	停電などでAC電源(AC100V)が失われ、電源が復旧したときに、どの状態に復旧するかを設定します。 「Off」:電源復旧時に電源が入らないようにします。 「On」:電源復旧時に電源が入るようにします。 「Former-Sts」:AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態でAC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

メモ I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューの「Advanced」→「Integrated Peripherals」でI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、フロッピーディスクドライブ、シリアルポート(Onboard Serial Port 1)、パラレルポート(Onboard Parallel Port)、USBポート(USB Contoller)です。

Power Management Setupの設定

Power Management Setupの設定

「Advanced」→「Power Management Setup」では、チップセット固有の詳細な機能について設定します。
省電力の設定を行うための設定項目について説明します。
ACPI対応のオペレーティングシステム(Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000)をご利用の場合、(△)マークがついている設定項目は無効になります。特に「HDD Power Down」、「Suspend Mode」、「Soft-Off by PWR-BTTN」は、ACPI対応の各オペレーティングシステムの電源管理の項目で設定してください。

メモ

電源管理の設定→Windowsのヘルプ

選択項目	選択内容	説　　明
ACPI Suspend Type	S1（POS） S3（STR） S1& S3	ACPIモードのスリープ状態を設定します。
Run VGABIOS if S3 Resume	Auto、Yes、No	本項目の設定は変更しないでください。
Video Off Method（△）	Blank Screen V/H SYNC+Blank DPMS	ディスプレイの画面をオフにする方法を設定します。 「Blank　Screen」:映像信号のないとき、画面をオフにします。 「V/H　SYNC+Blank」:VGAからディスプレイへの素直同期/水平同期信号を停止し、なおかつ画面をオフにします。 「DPMS」:DPMSモードにします。
Video Off In Suspend（△）	No Yes	ディスプレイをサスペンドさせるかどうかを設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Suspend Type（△）	Stop Grant PwrOn Suspend	本項目の設定は変更しないでください。
MODEM Use IRQ（△）	NA、3、4、5、7、9、10、11	FAXモデムに割り当てるIRQを設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Suspend Mode（△）	Disabled、1 Min、2 Min、4 Min、8 Min、12 Min、20 Min、30 Min、40Min、1 Hour	本機の省電力機能のタイムアウト時間を分単位で設定します。本機への操作をしない状態で設定した時間が経過すると、スタンバイ状態になります。「Disabled」の場合スタンバイしません。本項目の設定は変更しないでください。
HDD Power Down（△）	Disabled、1 Min～15 Min	ハードディスクの電源が自動的に切れるまでの時間を設定する（1 Min～15 Min）、しない（Disabled）を設定します。なお、10分未満に設定した場合、設定した時間になってもハードディスクドライブの電源が切れないこともありますのでご注意ください。
Soft-Off by PWR-BTTN（△）	Instant-Off Delay 4 Sec	本項目の設定は変更しないでください。
CPU THRM-Throttling	87.5%、75.0%、62.5%、50.0%、37.5%、25.0%、12.5%	CPUの温度を抑制するためにクロックスピードを設定します。本項目の設定は変更しないでください。
Resume on PME	Disabled Enabled	PCIデバイス（LANボード等）によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Enabled」に設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Power On by Ring（△）	Disabled Enabled	シリアルポートに接続したデバイスで電源を入れる、またはスタンバイから復帰するかを設定します。
USB KB Wake-Up From S3	Disabled Enabled	S3(スタンバイ状態)からUSB接続のキーボードによる復帰/復帰しないを設定します。 注：本機能は使用できません。
PS2 KB Wake Up from S3	Disabled Enabled	S3(スタンバイ状態)からPS/2接続のキーボードによる復帰/復帰しないを設定します。
PS2 Mouse Wake Up from S3	Disabled Enabled	S3(スタンバイ状態)からPS/2接続のマウスによる復帰/復帰しないを設定します。
Resume by Alarm（△）	Disabled Enabled	内蔵時計(RTC:リアルタイムクロック)による、電源オフ、スタンバイからの復帰を設定します。
Date（of Month）Alarm（△）	[0～31]	内蔵時計によって電源を入れる日を設定します。
Time（hh:mm:ss）Alarm（△）	[0～23]:[00～59]:[00～59]	内蔵時計によって電源を入れる時間（1時間単位）、分（1分単位）、秒（1秒単位）を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Primary IDE 0	Disabled Enabled	Primary Masterに接続されたIDE機器からのスタンバイからの復帰を設定します。
Primary IDE 1	Disabled Enabled	Primary Slaveに接続されたIDE機器からのスタンバイからの復帰を設定します。
Secondary IDE 0	Disabled Enabled	Secondary Masterに接続されたIDE機器からのスタンバイからの復帰を設定します。
Secondary IDE 1	Disabled Enabled	Secondary Slaveに接続されたIDE機器からのスタンバイからの復帰を設定します。
FDD,COM,LPT Port	Disabled Enabled	フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポートに接続された機器によるスタンバイからの復帰を設定します。
PCI PIRQ[A-D]#	Disabled Enabled	PCIボードに接続された機器によるスタンバイからの復帰を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

PnP/PCI Configurationsの設定

PnP/PCI Configurationsの設定

Plug & PlayおよびPCIバスに取り付けられたボードについて設定します。

選択項目	選択内容	説　　明
PNP OS Installed	No Yes	プラグアンドプレイ対応OSを利用している場合は、「Yes」を選択してください。
Reset Configuration Data	Disabled Enabled	「Enabled」を選択すると、システム設定値の初期化を行います。ただし、再起動時には「Disabled」に戻ります。
Resources Controlled By	Auto(ESCD) Manual	プラグアンドプレイ対応デバイスへのリソースの設定方法を選択します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
IRQ Resources		この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと、サブメニューの設定画面になります。「Resources Controlled By」で「Manual」を選択した場合に設定可能になります。
IRQ-3 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ3の設定を行います。
IRQ-4 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ4の設定を行います。
IRQ-5 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ5の設定を行います。
IRQ-7 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ7の設定を行います。
IRQ-9 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ9の設定を行います。
IRQ-10 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ10の設定を行います。
IRQ-11 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ11の設定を行います。
IRQ-12 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ12の設定を行います。
IRQ-14 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ14の設定を行います。
IRQ-15 assigned to	PCI Device /Reserved	IRQ15の設定を行います。
PCI/VGA Palette Snoop	Disabled Enabled	本項目の設定は変更しないでください。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

Securityの設定

Securityの設定

Securityでは、スーパバイザパスワードおよびユーザパスワードの設定をします。パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、8文字以内でなければなりません。また、大文字/小文字の区別はありません。

チェック!!

- スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」および『ハードウェア拡張ガイド』「PART5　付録」の「ストラップスイッチの設定」を印刷しておくことをおすすめします。
- ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポート』

項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

選択項目	選択内容	説　　明
Set Supervisor Password	(パスワード入力)	スーパバイザパスワードの設定を行います。設定した場合、BIOSセットアップメニュー起動時にスーパバイザパスワードを入力する必要があります。
Set User Password(☆)	(パスワード入力)	ユーザパスワードの設定を行います。

チェック!!

スーパバイザパスワードを設定する前にユーザパスワードを設定してしまった場合は、ユーザパスワードを解除した後、スーパバイザパスワードを再設定してください。

選択項目	選択内容	説　　明
Security Option	Setup System	パスワードを入力する場面を設定します。「Setup」ではBIOSセットアップメニュー起動時に、「System」ではシステム起動時とBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力を要求します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

パスワードの解除

スーパバイザ/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Supervisor Password」または「Set User Password」にパスワードを入れて、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。なお、スーパバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法については『ハードウェア拡張ガイド』「PART5 付録」の「ストラップスイッチの設定」をご覧ください。

無断でパスワードが解除されることを防ぐために、筐体ロックを使用することをおすすめします。(P.130)

PC Healthの設定

PC Healthの設定

CPU警告温度の設定や、CPUをシャットダウンする温度の設定など、パソコンの動作条件について設定します。

選択項目	選択内容	説　　明
Case Open Warning	Disabled Enabled Clear	「Enabled」を選択すると、本体のカバーが取り外された状態では起動できなくなります(ルーフカバーオープン検知機能)。なお、メッセージを解除する場合は、「Clear」に設定して再起動してください。
CPU Warning Temperature	Disabled、50℃/122°F、53℃/127°F、56℃/133°F、60℃/140°F、63℃/145°F、66℃/151°F、70℃/158°F	CPU警告温度を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

選択項目	選択内容	説　　明
Current System Temp.	(Auto Detect)	CPUやFANなどのシステムの状態を表示します。
Current CPU1 Temperature		
Current SYSFAN1 Speed		
Current CPUFAN1 Speed		
CPU Vcore		
1.5V		
3.3V		
+5V		
+12V		
-12V		
-5V		
VBAT(V)		
5VSB(V)		
Shutdown Temperature	Disabled 60℃/140°F 65℃/149°F 70℃/158°F 75℃/167°F	システムをシャットダウンする温度を設定します。CPUの温度が設定値を越えた場合、システムはシャットダウンします。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

PART

5

付　録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

割り込みレベル・DMAチャネル

◎割り込みレベル

工場出荷時の割り込みレベルの割り当ては、次の通りです。

■Windows XPの場合

割り込みレベル	デバイス		
	スリムタワー型（高拡張性タイプ）	スリムタワー型	Mate Rスリムタワー型
IRQ00	カウンタおよびタイマ		
IRQ01	PS/2接続キーボード		
IRQ02	（空き）		
IRQ03	シリアルポート（COM2）	（空き）	SMBus Controller ※3/（空き）※4※5
IRQ04	シリアルポートA　※1		
IRQ05	（空き）		SMBus Controller ※4※5/（空き）
IRQ06	フロッピーディスクドライブ		
IRQ07	（空き）		
IRQ08	リアルタイムクロック		
IRQ09	ACPI-Compliant System		
IRQ10	（空き）		
IRQ11	SMBus Controller	（空き）	
IRQ12	PS/2接続マウス		
IRQ13	数値演算コプロセッサ		
IRQ14	プライマリIDE		
IRQ15	セカンダリIDE		
IRQ16	グラフィック/USBコントローラ	RAIDコントローラ ※2/USBコントローラ/グラフィック	USBコントローラ/グラフィック
IRQ17	RAIDコントローラ※2/LAN※3/サウンド	LAN※3/サウンド	サウンド
IRQ18	LAN		（空き）
IRQ19	USBコントローラ		
IRQ20	（空き）		LAN
IRQ21	（空き）		LAN
IRQ22	LAN（ワイヤレス）	（空き）	
IRQ23	USBコントローラ		

※1　別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。
※2　IDE-RAIDボードを搭載したモデルの場合
※3　増設LANボードを選択した場合
※4　標準LANのみの場合
※5　FAXモデムボードを選択した場合

■Windows XP Homeの場合

割り込みレベル	デバイス		
	スリムタワー型（高拡張性タイプ）	スリムタワー型	Mate Rスリムタワー型
IRQ00	カウンタおよびタイマ		
IRQ01	PS/2接続キーボード		
IRQ02	（空き）		
IRQ03	シリアルポートB（COM2）	（空き）	SMBus Controller※2/（空き）※3※4
IRQ04	シリアルポートA　※1		
IRQ05	（空き）		SMBus Controller※3※4/（空き）※2
IRQ06	フロッピーディスクドライブ		
IRQ07	（空き）		
IRQ08	リアルタイムクロック		
IRQ09	ACPI-Compliant System		
IRQ10	（空き）		
IRQ11	SMBus Controller	（空き）	
IRQ12	PS/2接続マウス		
IRQ13	数値演算コプロセッサ		
IRQ14	プライマリIDE		
IRQ15	セカンダリIDE		
IRQ16	グラフィック/USBコントローラ		
IRQ17	LAN※2/サウンド		サウンド
IRQ18	USBコントローラ/LAN	LAN	（空き）
IRQ19	USBコントローラ		
IRQ20	（空き）		LAN
IRQ21	（空き）		LAN※2/FAX※4
IRQ22	LAN（ワイヤレス）	（空き）	
IRQ23	USBコントローラ		

※1 別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。
※2 増設LANボードを選択した場合
※3 標準LANのみの場合
※4 FAXモデムボードを選択した場合

■Windows 2000の場合

<table>
<tr><th rowspan="2">割り込み
レベル</th><th colspan="3">デバイス</th></tr>
<tr><th>スリムタワー型
(高拡張性タイプ)</th><th>スリムタワー型</th><th>Mate Rスリムタワー型</th></tr>
<tr><td>IRQ00</td><td colspan="3">カウンタおよびタイマ</td></tr>
<tr><td>IRQ01</td><td colspan="3">PS/2 接続キーボード</td></tr>
<tr><td>IRQ02</td><td colspan="3">(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ03</td><td>通信ポート(COM2)</td><td>(空き)</td><td>SMBus Controller</td></tr>
<tr><td>IRQ04</td><td colspan="3">通信ポート(COM1)</td></tr>
<tr><td>IRQ05</td><td colspan="3">(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ06</td><td colspan="3">フロッピー ディスクドライブ</td></tr>
<tr><td>IRQ07</td><td colspan="3">(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ08</td><td colspan="3">リアル タイム クロック</td></tr>
<tr><td>IRQ09</td><td colspan="3">ACPI-Compliant System</td></tr>
<tr><td>IRQ10</td><td colspan="3">(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ11</td><td>SMBus Controller</td><td colspan="2">(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ12</td><td colspan="3">PS/2 接続マウス</td></tr>
<tr><td>IRQ13</td><td colspan="3">数値演算プロセッサ</td></tr>
<tr><td>IRQ14</td><td colspan="3">プライマリ IDE</td></tr>
<tr><td>IRQ15</td><td colspan="3">セカンダリ IDE</td></tr>
<tr><td>IRQ16</td><td>グラフィック/
USBコントローラ</td><td>グラフィック/
USBコントローラ/LAN</td><td>グラフィック/
USBコントローラ</td></tr>
<tr><td>IRQ17</td><td colspan="3">サウンド</td></tr>
<tr><td>IRQ18</td><td>USBコントローラ/
LAN</td><td>LAN</td><td>(空き)</td></tr>
<tr><td>IRQ19</td><td colspan="3">USBコントローラ</td></tr>
<tr><td>IRQ20</td><td colspan="2">(空き)</td><td>LAN</td></tr>
<tr><td>IRQ21</td><td colspan="2">(空き)</td><td>LAN</td></tr>
<tr><td>IRQ22</td><td>LAN(ワイヤレス)</td><td>(空き)</td><td>FAX</td></tr>
<tr><td>IRQ23</td><td colspan="3">USBコントローラ</td></tr>
</table>

◎DMAチャネル

工場出荷時のDMAチャネルの割り当ては、次の通りです。

DMAチャネル	データ幅	デバイス
0	8または16ビット	(空き)
1	8または16ビット	(空き)
2	8または16ビット	フロッピーディスク
3	8または16ビット	(空き)
4	――――――	DMAコントローラ
5	16ビット	(空き)
6	16ビット	(空き)
7	16ビット	(空き)

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

本体
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

本体の内部
長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元にお問い合わせください。

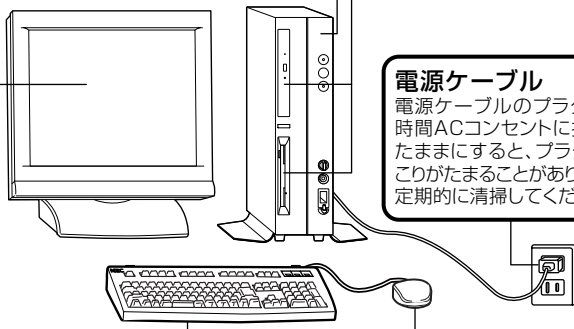
フロッピーディスクドライブ、CD/DVDドライブ
クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

ディスプレイ
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。

電源ケーブル
電源ケーブルのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

キーボード
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元にお問い合わせください。

マウス
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

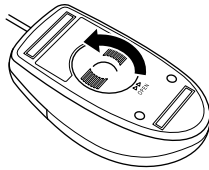
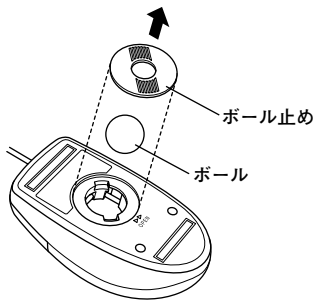
マウスの内部
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。
→「マウスのクリーニング」(次ページ)

チェック!!

- 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4〜6の手順は省略してもかまいません。

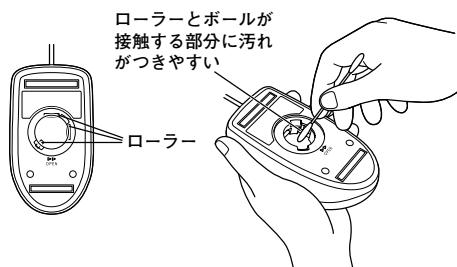
1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す

2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる

3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す

4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす

5　水で中性洗剤を洗い落とす

6　布で水分を拭き取り、風通しの良いところで充分に乾燥させる

7　マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けないでください）。

8　ボールをマウスに戻す

9　ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定

チェック!!

- クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

活用ガイド

ハードウェア編

PC98-NX シリーズ

Mate

スリムタワー型（高拡張性タイプ）
スリムタワー型

Mate R

スリムタワー型

（Windows XP Professionalインストールモデル）
（Windows XP Home Editionインストールモデル）
（Windows 2000 Professionalインストールモデル）

初版　2003年10月
NEC
P

853-810602-079-A